

平成16年度(第48回)  
岩手県教育研究発表会発表資料

音 楽

中学校音楽科における音楽的な感受の能力を高める  
指導に関する研究  
- 表現領域での批評文の活用をとおして -

平成17年2月9日  
長期研修生  
所属校 種市町立中野中学校  
林 崎 浩 恵

## 《 目 次 》

研究目的	1
研究仮説	1
研究の内容と方法	1
1 研究の内容	1
2 研究の方法	2
3 授業実践の対象	2
研究結果の分析と考察	2
1 中学校音楽科における音楽的な感受の能力を高める指導についての基本構想	2
(1) 中学校音楽科における音楽的な感受の能力を高める指導に関する基本的な考え方	2
(2) 表現領域で批評文を活用する必要性	3
(3) 表現領域で批評文を活用した実践についての指導の展開	3
(4) 中学校音楽科における音楽的な感受の能力を高める指導に関する基本構想図	4
2 表現領域で批評文を活用した指導についての実態調査及び調査結果の分析と考察	5
(1) 実態調査の計画	5
(2) 調査結果の分析と考察	5
(3) 実態調査から明らかになった問題点及び留意点	7
3 表現領域で批評文を活用した手だての試案の作成	8
(1) 手だての試案の作成	8
(2) 検証計画	8
4 授業実践及び実践結果の分析と考察	9
(1) 手だての試案に基づく指導計画	9
(2) 表現領域で批評文を活用した授業実践の概要及び分析と考察	13
(3) 音楽的な感受の能力の変容状況	16
5 中学校音楽科における音楽的な感受の能力を高める指導に関する研究のまとめ	19
(1) 成果	19
(2) 課題	19
研究のまとめと今後の課題	19
1 研究のまとめ	19
2 今後の課題	20

おわりに

【参考文献】

【補充資料】

## 研究目的

音楽に対する感性を育成するには、音楽を形づくっている諸要素を感受する能力が必要である。それは、音楽の構成要素と表現要素を知覚し、それらの働きによって生まれる曲想・雰囲気・豊かさ・美しさをイメージや感情をもって感じ取る能力である。この能力は、音楽科の学力構造のもっとも中核となるものであり、音楽的な感受の能力を高め、自分のイメージを生かして表現の工夫をすることは、生徒自身の幅広い表現活動につながる。

生徒たちは、音楽活動に対して前向きに取り組み、音楽のよさや美しさを感覚的には感じ取っているものの、その構成要素や表現要素について、気付いたことや考えたことを発表することは少ない。これは、音楽の構成要素と表現要素から知覚したことと感じ取ったことを関連付ける指導や、音楽からイメージしたことを生かして表現の工夫をさせたり、それを基にして歌を歌わせたり楽器を演奏させたりする指導が不十分であったことによると考えられる。

このような状況を改善していくために、指導目標や指導内容を明確にし、生徒が音楽から感じ取ったことを文章化する批評文を活用する。これは、生徒の感性に根ざした受けとめと学習をとおして認知した音楽の諸要素を関連付けて、感受したことを認識できるようにし、それを基に生徒が自分で表現の工夫ができるように指導するために必要なものである。

そこで、この研究は、表現領域での批評文の活用をとおして、中学校音楽科における音楽的な感受の能力を高める指導について明らかにし、今後の中学校音楽科の指導の改善に役立てようとするものである。

## 研究仮説

中学校音楽科において、指導目標や指導内容を明確にし、表現領域で次のように批評文を活用すれば、音楽的な感受の能力を高めることができるであろう。

- 1 知覚した構造的側面と感じ取った感性的側面とを関連付けさせる
- 2 感受したことを自分なりにどう表すか考えさせ、イメージを具体化させる

## 研究の内容と方法

### 1 研究の内容

#### (1) 中学校音楽科における音楽的な感受の能力を高める指導についての基本構想の立案

中学校音楽科において音楽的な感受の能力を高める指導に関する基本的な考え方をまとめ、仮説に基づき、音楽的な感受の能力を高める指導についての基本構想を立案する。

#### (2) 実態調査及び調査結果の分析と考察

表現活動における生徒の実態について調査し、その分析と考察を行い、問題点や課題点を把握して表現領域で批評文を活用した指導についての手だての試案作成に役立てる。

#### (3) 表現領域で批評文を活用した手だての試案の作成

基本構想及び実態調査に基づき、表現領域での批評文を活用した手だての試案を作成する。

#### (4) 授業実践及び実践結果の分析と考察

表現領域で批評文を活用した指導について、手だての試案に基づき、題材「イメージと強弱や旋律の特徴を関連付けた合唱表現」の授業実践を行う。また、授業実践の結果から検証計画に基づいて、中学校音楽科において音楽的な感受の能力を高める力の構成要素の変容状況について、分析と考察を行う。

#### (5) 中学校音楽科における音楽的な感受の能力を高める指導に関する研究のまとめ

実践結果の分析と考察に基づき、中学校音楽科において音楽的な感受の能力を高める指導についてまとめる。

## 2 研究の方法

### (1) 文献法

先行研究や文献を参考にし、中学校音楽科において音楽的な感受の能力を高める指導に関する基本構想を立案する。

### (2) 質問紙法

研究者が作成した質問紙を用いて、音楽的な感受の能力を高める指導に関する生徒の意識や状況及び実態についての調査を行う。

### (3) 授業実践

手だての試案に基づいて、生徒に表現領域で批評文を活用した授業実践を行う。

### (4) 観察法

授業実践をとおして生徒の活動の様子を観察及びビデオ撮影し、音楽的な感受の能力の変容状況を分析する。

## 3 授業実践の対象

種市町立中野中学校 第3学年 2学級（男子23名 女子22名 計45名）

## 研究結果の分析と考察

### 1 中学校音楽科における音楽的な感受の能力を高める指導についての基本構想

#### (1) 中学校音楽科における音楽的な感受の能力を高める指導に関する基本的な考え方

##### ア 音楽的な感受の能力とは

音楽的な感受の能力とは、音楽の構成要素（音色・リズム・旋律・和声を含む音と音とのかかわり合い・形式）と表現要素（速度・強弱）を知覚することによって、その音楽の曲想や雰囲気などをイメージや感情をもって感じ取り、それらを音楽活動の中で創意工夫し生かす力ととらえる。感覚の働きによって、音や音楽を感じ取る過程には段階がある。まず、聴覚をとおして感覚的に何か音が鳴っていると感じる。次に鳴っている音の特性を大きいとか、あるパターンをくり返しているといったように知覚する。そして、その音の雰囲気や特質などから「~のようだ」と感じ取る。この過程には個人の経験や受けとめ方によって多少の差はあるものの、知覚は何らかのイメージを伴って行われるものであり、知覚することと感じ取ることは同時に行われていることが多い。知覚したことが曖昧であれば感じ取ることも曖昧になり、知覚したことが詳細で鮮明であれば感じ取ることも豊かになる。このように、知覚することと感じ取ることの両方が関連付けられて音楽的な感受となることから、単に感じ取っただけでは音楽的な感受をしているとはいえず、知覚することと感じ取ることの両方の相互作用で音楽を認識していくことが大切である。さらに、音楽的な感受が生きた力として働くためには、感受したことが音楽的な思考・判断や発想となり、表現の工夫に生かせるようにすることが必要である。【表1】音楽的な感受の能力を高める構成要素とその

そこで、本研究では、【表1】のように、音楽的な感受の能力を高める力を「受けとめる力」と「見いだす力」の二つの要素で構成されるものと考ええる。「受けとめる力」は、単

##### 意味

構成要素	意味
受けとめる力	音楽の構成要素と表現要素を知覚し、音楽表現の豊かさ、美しさをイメージをもって感じ取り、それらを関連付けて認識する力
見いだす力	感受したことをもとに、自分の表現を工夫する力

に感性的側面（雰囲気・曲想・豊かさ・美しさなど）を感じ取って終わるのではなく、聴覚をとおしてしっかりと音楽の構造的側面（リズム・旋律・強弱・速度・音色・和音や和声など）

という客観的な事実を聴き取り、感じ取ったことと結び付けることである。この力によって培われた音楽的な感受が表現の工夫をする基となって、イメージしたことを具体化する「見いだす力」につながり、音楽的な感受の能力として生きてくるものと考えられる。

これらのことから、本研究では、音楽の構造をとらえ音楽の豊かさ美しさを見つけ出し、それを生かして表現の工夫をしながら、自分なりに表現してみようとする生徒の状態を音楽的な感受の能力が高まった姿をとらえる。

#### イ 「音楽的な感受の能力」を高める意義

音楽的な感受の能力は音楽的な思考や判断の基となり、音楽を聴いたり演奏したり作ったりする中で、音楽の特質をとらえイメージをもって自分なりの感じ方で音楽を味わうために欠かせないものである。これは、日々の音楽活動の中で自然に育つものと、意図的に育てられるもの、この両者があることで初めて豊かになっていくものである。しかし、これまでの指導を振り返ってみると、何かを感じ活動していればそれでよしとして終わっていた。あるいは、歌唱の発声から表情付けまで教師主導で演奏を仕上げられて終わっていた。そこには、活動への満足感があったかもしれないが、音楽的な感受の能力を授業で意図的に育てるという意識が弱かったと考える。音楽の構造的側面を聴き取らせ、音楽の美しさや豊かさを感じ取らせる経験をとおして、音や音楽を感受する能力を育成し、感受したことを表現するために工夫を重ねたりする活動をさせることは、生徒自身がどう音楽を作るか、どう表現するかといった思考・判断や表現の幅を広げるためにも必要である。

### (2) 表現領域で批評文を活用する必要性

#### ア 批評文とは

批評文は感想文と違い、知覚した楽曲の構造的側面と感じ取った感性的側面に基づき、両者を関連させて自分の中で総合して文章化し伝えるものである。批評文を書かせる上で大切な視点は、対象となる楽曲の構成要素や表現要素について指導することであり、生徒が知覚した音楽の構造的側面と感じ取った感性的側面が関連付けられていくよう学習シートに記述させることである。さらに、音楽からイメージしたことを具体化させて、それを基にして自分なりの表現の工夫をしていくようにさせる。

#### イ 表現領域で批評文を活用する意義

これまで、観点別学習状況の第2観点の「音楽的な感受と表現の工夫」については、頭の中で起こる知覚や感じ取り及び思考や判断や発想など目には見えないものとして、客観的に評価することが難しく、とらえ方が曖昧であった。その結果、歌唱表現であれば「ここはフォルテだから強く歌おう」といった諸要素への気付きだけで学習が進行したり、「やさしい感じで歌おう」といったイメージや気分だけを頼りにした表現活動に終始したりすることが多くなっていた。本来、重要なのはこれらを互いにかかわらせて音楽の学習をすることである。そこで、単にイメージをふくらませて終わったり、用語を覚えさせたりするのではなく、生徒の感性に根ざした受けとめや音楽の様々な要素を知覚し感じ取ったこととを関連付けて、批評文によって認知したことを表出させるようにする。つまり、生徒は批評文を書くことをとおして、思考・判断、表現の幅を広げていくものと考えられる。

### (3) 表現領域で批評文を活用した実践についての指導の展開

音楽の授業では、まず教材（楽曲）との出会いがあり、その中で生徒は音楽の刺激に反応し、自分なりの感じ取りをする。それは「何となく、こんな感じ」とか、「ノリがいい」といった浅いとらえ方である。そこから一步踏み込んで、歌ったり歌詞を読んだり範唱を聴いてみたりして、生徒なりに感じ取ったことの中から、表現を考えたり深めたりしたいところに焦点を当て、指導の目標や

内容を明確にする。それを前提に批評文を次のような段階で書かせていく。

ア 関連付ける

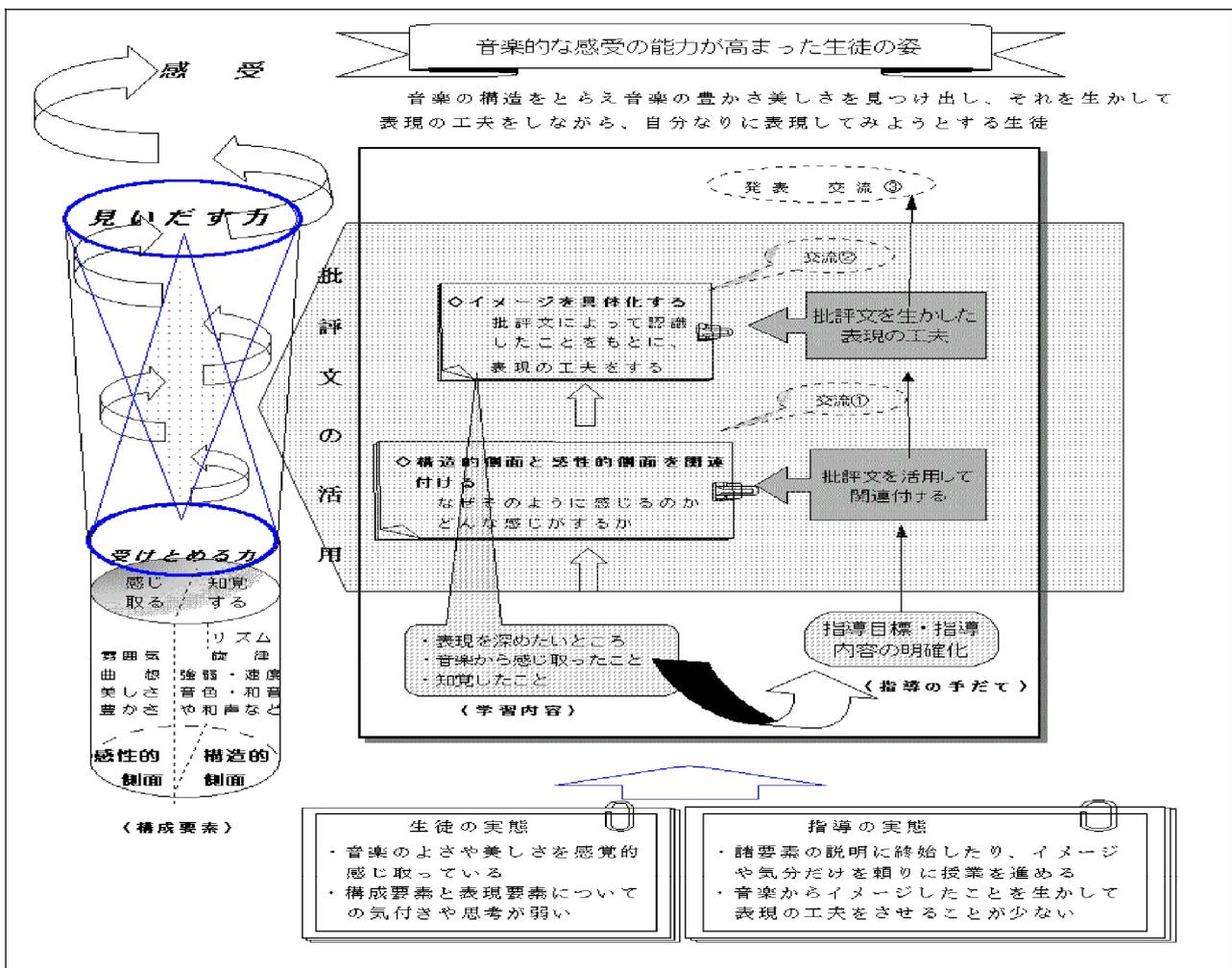
この段階では、感じ取った感性的側面は「～のような感じ」という比喩的な表現から、なぜそのように感じるのかを音楽の構造的側面に、知覚した構造的側面はその働きによって醸し出される曲想や雰囲気に関連付けるよう考えさせたり、意見交流させたりする。こうして、感受した感性的側面と構造的側面とを言葉で結び付けることによって、自分の中に受けとめた音楽に対するイメージを認識させる。

イ イメージを具体化する

イメージしたことを生かして実際の演奏でどのように表現していくか「こうしてみたい」という音楽上のアイディアや発想を出し、工夫を重ねる。これは、生徒自らの思いや考えを深めながら、自分なりの表現の仕方を探る段階であり、学習したことがどのように理解されたか見る場である。前段の批評文を基にしながら、生徒の思いや考えが心の中に埋もれたままにならないように、楽譜に書き込みをしたり、出したアイディアを学習シートに書かせたりする。また、合唱パート毎やアンサンブルグループで活動し互いの表現の工夫を聴き合い、そのよさを感じ取るようにする。

(4) 中学校音楽科における音楽的な感受の能力を高める指導に関する基本構想図

これらの基本的な考えに基づき、中学校音楽科において音楽的な感受の能力を高める指導に関する基本構想図を【図1】のように作成した。



【図1】中学校音楽科において音楽的な感受の能力を高める指導に関する基本構想図

## 2 表現領域で批評文を活用した指導についての実態調査及び調査結果の分析と考察

### (1) 実態調査の計画

手だての試案を作成するに当たって、音楽科の学習に対する意識や態度の実態を把握するために、次のような目的と内容で調査用紙を作成し、7月20日に実態調査を行った。

#### ア 調査の目的

調査対象となる中学校3年生の音楽の授業における問題点や課題を把握し、表現領域における批評文を活用した手だての試案作成に必要な資料を得ることを目的として行う。

#### イ 調査の対象

種市町立中野中学校 第3学年2学級 (男子23名 女子22名 計45名)

#### ウ 調査の内容

感受の傾向、批評文の記入に対する抵抗感、表現の工夫をする方法、批評文を活用した意見交流での意識や態度。実態調査の設問のねらいと設問内容は、【表2】のとおりである。なお、実態調査用紙は【補充資料1】に示す。

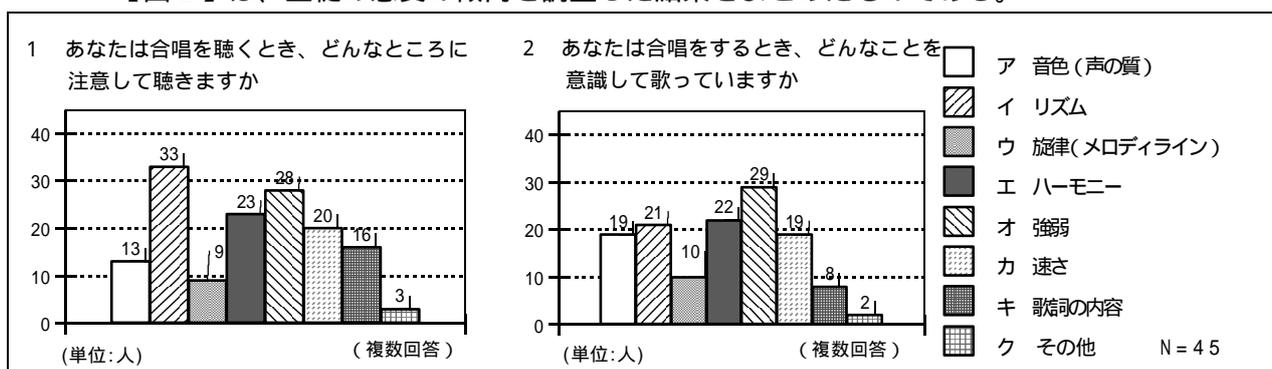
【表2】実態調査の具体的な観点と内容

設問のねらい	番号	設問内容	手だてへの生かし方
感受の傾向	1	合唱曲を初めて聴くとき、どんなところに注意して聴くか	知覚と感じ取りの傾向を調査し、指導目標・指導内容を実態にあわせてしぼりこむときの目安にする
	2	合唱するとき、どんなことを意識して歌っているか 〔音色 リズム 旋律 ハーモニー 強弱 速さ 歌詞の内容 その他〕	
批評文の記入に対する抵抗感	3	学習シートに、音楽から感じ取ったことを文章で記入するときには困ることはあるか	文章で表すことへの意識を知り、文章で書くことへの抵抗感に配慮した批評文の設問を工夫する
表現の工夫をする方法	4	音楽のイメージを自分なりに表すとしたら、どのような方法がよいか 〔図・線・文字・文章・体の動き・話す〕	各自の得意な方法を把握し、スムーズに表現の工夫をする活動に取り組みやすいよう、設問や指示の仕方を工夫する
	5	演奏方法を工夫するときどうするか 〔調べる・先生に聞く・相談する等〕	
批評文を活用した意見交流での意識や態度	6	課題を一人で考えるのと、班やグループで考えるのとではどちらが学習しやすいか (理由)〔一人・班・グループ〕	グループや人前で自分の意見を出すことへの抵抗感に配慮した意見交流や発表の場の設定をする
	7	自分の考えや感想を話しやすいグループの人数は何人が	
	8	人前で演奏や発表をするときに困ることはあるか	

### (2) 調査結果の分析と考察

#### ア 感受の傾向

【図2】は、生徒の感受の傾向を調査した結果をまとめたものである。

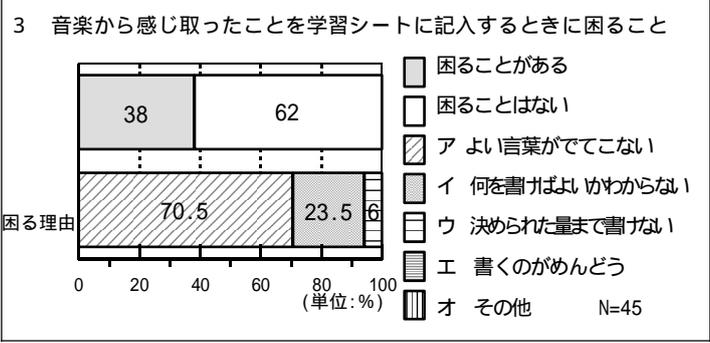


【図2】感受の傾向

合唱曲を聴くとき「強弱」と「リズム」に注意している生徒の割合が高く、特にリズムについては、「ノリ」を重視しているとする記述があった。次いで、「ハーモニー」「速さ」が多く、この傾向は、設問2の「合唱するときに意識して歌おうとしていること」にも見られた。逆に、どちらも「旋律(メロディライン)」に対する意識が低く、歌うときには「歌詞の内容」に対する意識が極端に低くなっている。このことから、知覚しやすい「強弱」の変化や効果、「速さ」や「リズム」など、「ノリ」のよさにかかわることには関心が高いことがうかがえる。

イ 批評文の記入に対する抵抗感

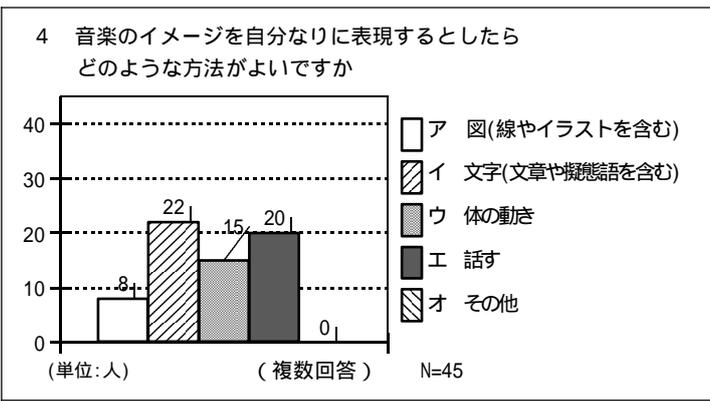
【図3】は、批評文の記入に対する抵抗感について、「音楽から感じ取ったことを学習シートに記入するとき困ること」としてまとめたものである。「困ることはない」と回答した生徒は62%で、文章で書くことに対する抵抗感をもっている生徒は少ないが、困ることがある生徒の中で、困る理由として「よい言葉が出てこない」が70.5%と多かった。



【図3】批評文の記入に対する抵抗感

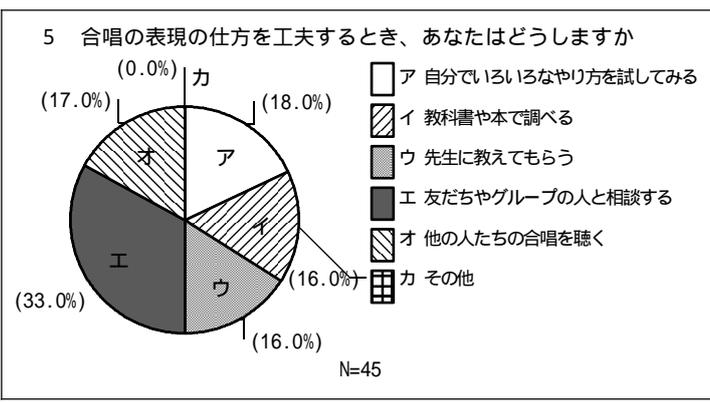
ウ 表現の工夫をする方法

【図4】は、表現の工夫をする場面で、イメージの表し方としてどの方法がやりやすいかをまとめたものである。「文字」と答えた生徒が約半数の22人、次いで「話す」が20人であった。



【図4】表現の工夫をする方法

【図5】は、合唱の表現の仕方を工夫するときどのような方法がよいかまとめたものである。自分の力で考え、能動的に工夫をする方法を選んでいる生徒もいるが、「友だちやグループの人と相談する」が全体の33%と最も多く、友だちを頼りとする傾向があり、一人で考えることには消極的であることがうかがえる。「先生に教えてもらう」を含めると、約5割の生徒に受身的な様子が見られる。



【図5】表現の工夫をする方法

エ 批評文を活用した意見交流での意識や態度

次頁【図6】は、課題について考えるとき、一人がよいか班やグループがよいかをまとめたものである。「グループ」と答えた生徒が全体の71%で、理由として「いろんな意見や考えを聞くことができる」「いろんな意見や考えが出る」があげられ、多様な発想を求める傾向が強く見られた。また、「相談することができ、まとまって話ができる」や「話しやすい、やりやすい」「一人ではわからない」「仲のよい人と一緒に考えたい」「心強い」といった一人では自信がなく、誰かに頼りたい傾向を示すものも全体の三割程あった。「一人」と答えた生徒は、「まわりの意見に流されない」「自分なりの考えをもてる」とい

う理由をあげた。グループの人数は「3～4人がいい」が最も多かった。

【図7】は、人前で発表するとき困ることをまとめたものである。「困ることがある」と回答した生徒は58%で、理由として「人前で発表するのが恥ずかしい」「発表できるまでまとめられない」をあげた生徒が多かった。

(3) 実態調査から明らかになった問題点及び留意点

実態調査の分析から明らかになったことを整理し、その要因をとらえることによって手だての試案作成上の留意点についてまとめる。

ア 実態調査の分析から明らかになったこと

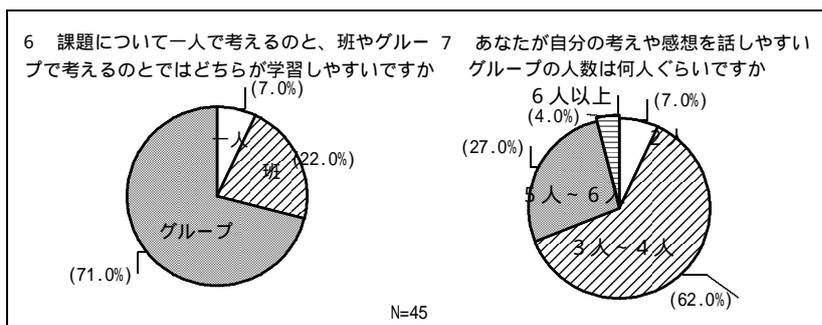
- (ア) 生徒の感受の傾向には、それぞれ生徒なりの感覚的な受けとめ方に加え、これまで学習したことについて認知されているものが表れている。
- (イ) 音楽から感じ取ったことを書くことに強い抵抗感はないが、どのような言葉を使ったらよいか苦慮することがある。
- (ウ) 課題を自分で考えるよりも、誰かと相談したり人の意見を聞いて解決したいという生徒が多く、人前で発表することに対してもあまり積極的ではない。

イ 要因

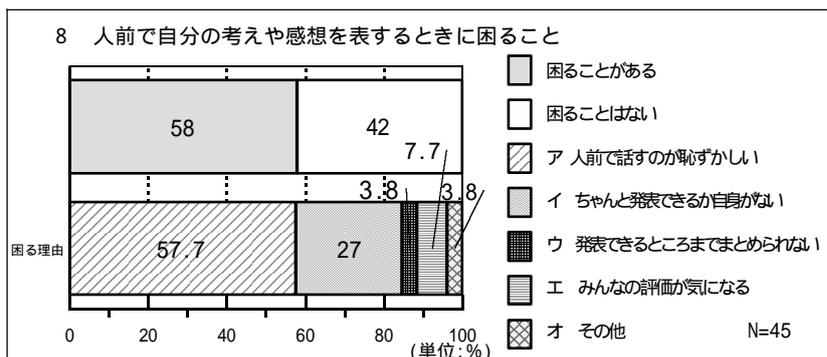
- (ア) 知覚しやすい「強弱」の変化や効果、「速さ」や「リズム」などノリのよさにかかわることには関心が高いが、歌詞の内容と旋律とのかかわりについてはこれまでの学習が不十分であり、認識が弱いと思われる。
- (イ) 感想を書くことはできるが、十分な量が書けなかったり、文章力に左右されたりしてうまく書けないという意識をもっていることや、音楽の用語や音楽から感じ取ったことを表すような言葉の使い方の学習が不足していると考えられる。
- (ウ) 自分の考えや感想を発表し合うことに慣れていないことや、何に焦点を当てて考えをまとめたり発表したりすればよいか、曖昧なためと考えられる。

ウ 手だての試案を作成する上での留意点

- (ア) 知覚しやすい要素については、表現の工夫をする意欲を喚起するために、端的に説明をするとともに生徒が表現の効果をあげやすいように指導方法を工夫する。また、これまで学習が不十分だった要素に焦点を当てて指導目標や指導内容を考えるようにする。
- (イ) 批評文の内容をより具体的なものにするためにも、前段で音楽の構成要素や表現要素を明確に提示し、段階的に関連付けを図って生徒が自分で批評文に必要な要素を見いだせるようにする。また、文章力に左右されないよう、批評文の様式を文字や文章が書き込みやすい形にする。



【図6】意見交流での意識や態度



【図7】意見交流での意識や態度

(ウ) 活動の視点や、交流するときの視点を提示し、活動への抵抗感を取り除くようにする。また、発想を広げたり自分の考えに自信をもたせるようグループ編成やグループでの活動場面を工夫する。

### 3 表現領域で批評文を活用した手だての試案の作成

#### (1) 手だての試案の作成

基本構想及び実態調査の分析結果より明らかになったことを考慮して、表現領域で批評文を活用した手だての試案を【図8】のように作成した。

(図中の 部分は配慮事項)

指導の流れ	学習活動	指導上の留意点
<b>指導目標・内容の明確化</b> 題材設定、指導項目の焦点化 ・教材曲の初発の感想から知覚したこと、感じ取ったことを把握し、批評文で関連付けを図るために、気に入った部分や表現を考えたり深めたりしたい部分をしばらせておく ・指導内容を洗い出す ・構成要素と表現要素を提示する ・指導目標に応じたキーワードを設定する	<b>学習活動</b> <教材曲について、初発の受けとめを確認する> どんないメージをもっているか (どのように表現したいか) この曲の中で好きなところ、気に入っている部分はどこか(理由) この曲の中でも、より豊かに表現したいのはどこか(どのように表現したいか) ↓ <b>音楽の構成要素と表現要素を確認する</b> キーワードについて考えてみる	<b>指導上の留意点</b> ・評価、歌唱にかかわる指導事項と指導内容【補充資料2】に照らして焦点化する ・自由に考えさせ、生徒なりの受けとめを大切に ・教材曲の特色に応じて適切なもの、必然的に関連のあるものを取り上げる
<b>批評文の活用</b>		
<b>関連付ける</b> ・初発の感想を生かして、3ステップで批評文を書かせる ・音楽の構造的側面・感性的側面に着目させ、知覚したことを書き出させる ・自分の考えを確認したりそれぞれの受けとめを知ったりしながら多様な感じ取り方があることに気付かせる	<b>批評文(1)の活用</b> ・どうしてそのように感じたのか、その部分に惹き付けられたのはなぜか考える ↓ <b>交流</b> 感想 ・グループをつくり、批評文(1)に書いたことを交流しあう	・初発の感想を「イメージや雰囲気を表していること」と「音楽の諸要素の働き」に分類させる ・グループの編成を工夫する ・交流会の進め方のポイントを提示する ・交流した感想を随時記入させる
<b>イメージを具体化する</b> ・批評文(1)に書いたことを基に、イメージしていることをより具体的・視覚的に表すアイデアを書かせる ・イメージしたことを生かすよう実際に演奏で表現する方法を考えさせる ・どういう根拠でその表現方法を選んだのか、どうしてそのような発想をしたのかがわかるように発表させる	<b>批評文(2)の活用</b> ・イメージしていることを具体的に表わす(図・線・絵・文字・身体表現・文章等) ↓ <b>交流</b> 感想 ・それぞれの受けとめや見だしを知る ・声にしてみる(音色、ハーモニー作り等) ↓ <b>表現の工夫を発表する</b> <b>交流</b> 感想	・3種類のイメージスコアを用意しておき、各自にあったものを選択させる ・文字入り ・楽譜入り ・白紙 ・学習したことがどう理解されているかを見る ・発表のポイントを提示する

【図8】表現領域で批評文を活用した手だての試案

#### (2) 検証計画

手だての試案の妥当性をみるために、検証計画を【表3】のように作成した。

【表3】検証計画

検証項目	検証内容	検証方法	処理方法
音楽的な感受の能力の変容状況	受けとめる力	事前事後に実施する質問紙【補充資料3】	【表4】「五つの質的な段階」により回答記述の内容を分類し、考察する… 検証A
	見いだす力	学習指導過程における生徒の活動の様子	初発の受けとめ、批評文、交流をとおしての気付きから感じ取りと知覚の傾向を把握し、変容状況を考察する… 検証B
	受けとめる力	批評文(1)の記述	記述状況を【表5】記述例によって分析し、考察する… 検証C
	見いだす力	批評文(2)の記述 ビデオ撮影による活動の様子の観察 (意見交流・表現の工夫の場面)	記述内容を【表6】視点によって分析し、考察する… 検証D 活動の様子から、批評文を活用した表現の工夫の変容状況を分析し、考察する… 検証E

【表4】は事前事後調査（設問は【補充資料3】参照）の回答を「五つの質的な段階」に分類する視点である。【表5】は関連付けを図る批評文(1)の記述から「受けとめる力」の変容状況を判断するための記述例であり【表6】は表現の工夫をする批評文(2)イメージスコア)から「見いだす力」の変容状況を判断するための視点である。

検証計画に基づいて、質問紙と指導過程の活動の様子から事前事後の感受の傾向の変容状況を、二つの批評文の記述から音楽的な感受の能力の変容状況をそれぞれ分析し、考察する。「見いだす力」については活動の様子を観察し、その変容状況を見取る。以上の五つの視点から検証を行い総合的に音楽的な感受の能力の高まりを考察する。

#### 4 授業実践及び実践結果の分析と考察

手だての試案に基づき、題材「イメージと強弱や旋律の特徴を関連付けた合唱表現」の指導計画及び学習指導案を作成し、授業実践を行う。なお、学習指導案は略案を掲載する。

##### (1) 手だての試案に基づく指導計画

###### ア 授業実践の計画

(ア) 対象 種市町立中野中学校 第3学年2学級 (男子23名 女子22名 計45名)

(イ) 期間 平成16年8月29日から9月29日

(ウ) 指導計画(7時間扱い、詳細は次頁【表7】参照)

【表4】事前事後調査の回答を「五つの質的な段階」に分類する視点

設問	段階	判断する記述の視点
受けとめる力	1	「わからない」「考えたことがない」「できない」 否定的・未認知
	2	「がわからない」「だからできない」 理由や原因が付く
	3	「なんとなく」「そのほうがいいから」「自然に…」「無意識に…」 感覚的に浅く受けとめている(受け身的な肯定を含む)
	4	「楽しい」「カッコいい」「歌いやすい」「うまくなる」 感覚的に受けとめている中に、肯定する明確な原因や理由はないが、どのようにいのかイメージをひとりで形容している ・強弱やテンポなど、音楽の諸要素の働きについてふれている
	5	「だからしたい」「すると な感じになるから」 感覚的に受けとめたことを知覚したことに結びつけている 知覚したことをイメージや雰囲気に関係づけている
受けとめる力	1	「わからない」「考えたことがない」「できない」 否定的・未認知 「好きだから」「気に入ったから」 思考が伴わない肯定
	2	「がわからない」「だから考えない」 理由や原因が付く
	3	「なんとなく」「そのほうがいいから」「自然に…」「無意識に…」 感覚的に浅く受けとめている(受け身的な肯定を含む)
	4	「いい合唱になる」「盛り上がりがいい」「共感できる」 合唱して『よいと感じる』ことの例をあげている
	5	「気に入った部分について、どうして気に入ったのかその理由を考え、音楽の諸要素の働きとイメージや雰囲気を関連付けることに意義を見つけている 「わからない」「考えたことがない」「できない」 否定的・未認知 「好きだから」「気に入ったから」 思考が伴わない肯定
見いだす力	1	「わからない」「考えたことがない」「できない」 否定的・未認知 「好きだから」「気に入ったから」 思考が伴わない肯定
	2	「がわからない」「だから考えない」 理由や原因が付く
	3	「そのほうがいいから」「無意識に…」 「記号が付いているから」 感覚的に浅く受けとめている(受け身的な肯定を含む)
	4	「おもしろい」「楽しい」「いい合唱になる」 感覚的に受けとめている中に、肯定する明確な原因や理由はないが、どのようにいのかイメージをひとりで形容している ・「～したいから」といった音楽表現への積極的な意欲が感じられる
	5	「～するために」「～すると～になる」「～だから～している」 音楽の諸要素の働きとイメージや雰囲気を生かして表現の工夫を実行している 表現の工夫することに意義を見つけている

【表5】批評文(1)から受けとめる力の変容状況を判断するための視点

段階	1 分類 「初発の受けとめ」の感想「イメージや雰囲気」「音楽の諸要素」に分類する	2 結びつけ 分類したものを関連付ける	3 追発見 楽譜を見直したり、グループで交流したりして「イメージや雰囲気」「音楽の諸要素」を増やす
評価項目	初発の感想を「イメージや雰囲気」「音楽の諸要素」に分類することができる	分類したものを「イメージや雰囲気」「音楽の諸要素」に関連付けることができる	曲の中から、さらに「イメージや雰囲気」「音楽の諸要素」を見つけ出すことができる
判断基準	B 半分以上分類できている	「イメージや雰囲気」「音楽の諸要素」がつながるように、記入らんに並列に書き込みができる。初発の感想でどちらかが欠けていた場合は、欠けていた部分を考えて書き込みをしている	キーワードの解説を取り入れたり、グループ交流から他者の考えを受け入れたりして、記述を増やしている
	A すべて分類できている	Bの内容に加え、さらに、にはどの部分からどのような感じがしたのか、には音楽の諸要素がどのように働いているか説明するような記述をしている 例) (歌詞)「・・・」部分は「～のようだ」「～の感じがする」「タッカのリズムの繰り返し」「重なり合ったハーモニー」	Bの内容に加え、さらに、楽譜を見直したり、曲を聴き直したりして記述を増やしている
A, B以外のものをCとする			

【表6】批評文(2)から見いだす力の変容状況を判断するための視点

批評文(1)に記述したことを基に、さらにイメージを具体化し視覚的に書き表して、演奏につながる表現の工夫を重ねているか、批評文(2)「イメージスコア」記述内容を次の視点から判断する	
A	批評文(1)に記述したことを基に、イメージしたことや「このように表現したい」という思いを初発の受けとめの段階よりも具体化し、実際の演奏をイメージしながら、見て分かる形で「イメージスコア」に書いている。
B	批評文(1)に記述したことを基に、イメージしたことや「このように表現したい」という思いを具体化し、実際の演奏をイメージしながら見て分かる形で「イメージスコア」に書いている。

- ・第1次(2時間)……指導目標・指導内容の明確化、「初発の受けとめ」
- ・第2次(2時間)……批評文を活用して関連付けを図る段階
- ・第3次(3時間)……批評文を活用して表現の工夫を図る段階

【表7】題材の指導計画

- ・主たる指導内容 - 「学習指導要領」表現・歌唱の指導事項【イ】
- ・副次的な指導内容 - 「学習指導要領」表現・歌唱の指導事項【ア】【エ】【キ】【ク】

次	時	活動のねらい	学習内容と学習活動	指導上の手だて(評価)
第1次	1	・歌のイメージや雰囲気と音楽の諸要素の働きのかかわりについて確認させる	・既習曲のイメージや雰囲気と音楽の諸要素の働きのかかわりについて復習する ・教材曲を簡単にアナリーゼする	・歌ったり、範唱を聴いたりして、自由にイメージをもたせ、生徒なりの受けとめを大切に ・歌詞の内容、曲の構成について分析する
	2	・教材曲を十分に歌い味わい、全体像をつかませる ・指導目標に合わせて、言葉の表現を考えさせる視点にする ・曲の中で、表現の工夫をしたい部分を抽出させ、どのように表現してみたいか考えさせる	・教材曲の歌詞を読んでの感想 ・範唱を聴いての感想を書く ・歌詞の中でポイントになっている言葉、歌の雰囲気を表すような言葉を探す ・特に表現の工夫をしてみたいところを絞り、どのように表現したいか考える	・知覚したことと感じ取ったことを関連付けるヒントとして「キーワード」を出させる ・表現の工夫をするための課題意識をもたせるようにする (観点1-、観点2-)
第2次	3	・初発の受けとめを感じ取ったイメージと、知覚した諸要素とに分類させる。	・初めにもった感想の内容を、イメージや雰囲気を表していることと音楽の諸要素とに分類する	・キーワードと旋律との関係を考えさせ、構造的側面と感性的側面の関連付けのヒントにする ・交流の仕方を提示する (観点1-、観点2-、観点3-)
	4	・キーワードを音楽の構成要素と表現要素に結び付けて、それをヒントに構造的側面と感性的側面が関連付けられる部分を見付けさせる ・批評文を交流することで、自分の考えを確認したり、他の受けとめ方を知ったりしながら、多様な感じ取りがあることに気づかせる	・曲の中から、イメージや雰囲気と音楽の諸要素が関連付けられる部分を探し出す ・批評文に書いたことをグループで交流する	
第3次	5	・批評文に書いたことをもとに表現の工夫を考え、そのアイデアを具体的・視覚的に表現させる	・これまでの学習を生かして、さらにどんなふうに表示したいか考えを書く ・批評文に書いたことをもとに実際に表現するためにどのようにしたらよいか工夫点を考え、イメージスコアにアイデアを書き込む	・実際に演奏で表現する方法を考えさせ、自分の言葉などで書き表すように書き込ませる ・どういう根拠でその表現方法を選んだのか、どうしてそのような発想が生まれたのかわかるようにする (観点1-、観点2-、観点3-)
	7	・グループで表現の工夫をしたことを交流することによってそれぞれの受けとめたことや見いだしたことを知覚し合わせ、感受と表現の幅を広げさせる	・アイデアをグループで交流する ・グループで発表された表現の工夫を全体に紹介する	

イ 題材「イメージと強弱や旋律の特徴を関連付けた合唱表現」の学習指導案

8頁の手だての試案に基づいて、学習指導案を11項【資料1】のように作成した。なお、展開案については、批評文の活用の特徴を示すため、第2次の略案を示す。(学習指導案の詳細は【補充資料4】、評価計画は【補充資料5】、学習シートは【補充資料6】参照)

【資料1】題材「イメージと強弱や旋律の特徴を関連付けた合唱表現」の学習指導案

第3学年 学習指導案

指導期間 平成16年8月30日～9月29日  
指導学級 種市町立中野中学校  
3年A組 (男子11名 女子11名 計22名)  
B組 (男子12名 女子11名 計23名)  
指導者 林崎 浩恵(長期研修生)

1 題材名 イメージと強弱や旋律の特徴を関連付けた合唱表現

2 題材について

(1) 題材について

学習指導要領の第2・3学年の目標(2)では、「楽曲構成の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創造的に表現する能力を高める」とし、音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り楽曲の構造的側面への理解を深めて、感性的側面とのかかわりから表現の工夫を求めることを示している。このことから創造的な表現と音楽的な感受を高めるためには音楽活動を通して楽曲の仕組みや、それによって生み出される豊かさや美しさを一層明確に感じ取って表現することが大切になる。そこで、本題材では合唱曲の学習を通して、主に学習指導要領の第2・3学年表現・歌唱の指導事項イの内容に焦点をあて指導する。指導事項イは、「曲種に応じた発声により、美しい言葉の表現を工夫して歌うこと」を指導するように示している。ここで示している内容は、学習の対象としている歌唱曲に対して、生徒自身がふさわしい声の出し方や音色を感じ取って歌うことである。そのためには、楽曲の特徴をとらえて、自己の中にイメージを作って歌うことが大切であり、歌詞の内容を理解し生徒が言葉の美しさを感じ取ることが必要である。言葉の特性を感じて気を付けて表現するだけにとどめず、曲の中での言葉の価値を見だし、こうすれば言葉をより美しく表現できるということを意識した学習に発展させたい。

(2) 生徒について

生徒たちにとって合唱は、授業・集会・行事を通して身近に歌われているものである。個人差はあるが、歌うことを楽しんでいる生徒が多く意欲的に活動する。しかし、合唱という演奏形態上、一人一人の感性を生かした表現をさせることは少なく、一斉指導で教師の音楽性によって表現させる活動に終始することが多く、集団に頼り埋もれてしまいがちである。また、音楽のとらえ方も個人の趣味嗜好に偏り、広げたり深めたりすることには弱い面がある。

(3) 指導にあたって

教材となる曲に対するそれぞれが感じ取ったイメージと知覚した音楽の諸要素を、初発の受けとめとし、そこから自己のイメージや感情の根拠を歌詞や曲の仕組みの中に見つけるよう指導を展開する。その際、歌詞の中でポイントになる言葉に着目し、キーワードとして取り上げた上で、「言葉」「旋律」「フレーズ」「拍子」「強弱」「速度」を中心に曲想を感じ取らせ、イメージとの関連付けを図る。そして、言葉のアクセント、リズム、語感による特性、濁音・鼻濁音などの美しい表現の仕方を感じ取って歌唱表現の工夫をさせ、言葉のアクセントや抑揚を生かした歌唱表現につなげていきたい。

3 教材名

混声合唱 3年A組「IN TERRA PAX」、3年B組「Soon-ah will be done」

4 題材の目標

音楽の諸要素の働きと歌詞の内容により生まれる曲想を感じ取り、自己のイメージや感情の根拠を歌詞や曲の仕組みの中に見付け、言葉のアクセントや抑揚を生かしたより豊かな合唱表現の工夫をする。

5 題材の指導計画（全7時間）

- (1) 第1次 教材曲を十分に歌い味わい、曲のイメージや曲想を感じ取り、知覚したその曲を特徴付けている要素を書き出させる。曲の中で、表現の工夫をしたい部分を抽出させ、どのように表現してみたいのか考えさせる。（2時間）
- (2) 第2次 曲に含まれている音楽の構成要素と表現要素を確認し、初めに感じ取ったこと、知覚したことを、確認した音楽の構成要素と表現要素に結び付けて、構造的側面と感性的側面を関連付けさせる。（2時間）
- (3) 第3次 批評文の内容をより具体的に表し、表現の工夫をするアイデアを練る。（3時間）

6 題材の評価計画（【補充資料5】参照）

7 題材の指導の展開（略案）

第2次 関連付ける・・・2時間扱い

目標： 自分がもったイメージから、なぜそのように感じたのか、曲に含まれている要素からどんな感じがしたのか考えよう

曲のイメージと諸要素の働きや旋律の特徴との関連に関心をもつ（観点1）

構造的側面の具体的な諸要素を提示し、感性的側面と関連付ける（観点2）

感じ取ったことや、聴き取ったことがよく伝わるように表現している（観点3）

時間	学習活動	指導の流れ（働きかけ 手だてにかかわる留意点）
3	1 ウォーミングアップ ・パート練習 ・教材曲を合唱する	・スムーズに歌えるように、雰囲気や体をほぐす ・イメージを大切に、各自が指摘した部分の表現を意識させながら歌わせる
	2 本時の学習課題を確認する	自分がもったイメージから、なぜそのように感じたのか、曲に含まれている要素からどんな感じがしたのか考えよう
	3 歌のイメージと諸要素の分類をする	分類 【学習シート No,3 - 1】 前の時間に書いた感想の内容を、イメージや雰囲気を表していることと、音楽の諸要素とに分けてプリントに書こう シートの記入方法を説明する

	4 キーワードを探る	キーワードが音楽の諸要素によってどのように表現されているか考えてみよう キーワード（言葉）の表現と構造的側面とのかかわりを考えさせる
	5 歌のイメージや雰囲気と音楽の諸要素の働きとのかかわりを探しだす	結びつける 追発見 【学習シート No,3 - 1】 【学習シート No,3 - 1】で分類したことをもっと増やしてふくらませてみよう 分類したことでらんが片方だけになっているところがあったら、もう片方を埋めてみよう ない場合は、さらに曲の中から歌のイメージや雰囲気と音楽の諸要素の働きとのかかわりのある部分を探して区切り線の下に書き足していこう
	6 次の学習内容を知る	・学習シートに記入したことを交流することを伝える
4	1 教材曲のパート練習、合唱	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スムーズに歌えるように、雰囲気や体をほぐす</li> <li>・イメージや雰囲気と音楽の諸要素の働きを意識させながら歌わせる</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">感じ取ったイメージや雰囲気と音楽の諸要素のかかわりをたくさん見つけよう</div>
	2 本時の学習課題を確認する	
	3 グループで交流する	<b>【交流カード】</b> 【学習シート No,3 - 1】に書いた内容をグループ内で発表し合います グループの人の発表を聴いて、共感できるものがあったら、区切り線の下に色ペンで書き足して下さい。 グループで批評文を交流することによって、それぞれが受けとめたことや見いだしたなかみの違いや共通点を知覚し合わせる
	4 本時のまとめをする	グループの人の発表を聴いた感想を「INTERCHANGE CARD」に書こう
	5 次の学習内容を知る	・ここまでの学習を生かして、実際に表現するための工夫を考えることを伝える

(2) 表現領域で批評文を活用した授業実践の概要及び分析と考察

14頁～15頁【資料2】は表現領域で批評文を活用した授業実践の概要及び分析と考察である。

教材曲は文化祭に近いこともあり、本研究の構想にあうもので学級合唱の発表曲にもできる曲を候補曲として提示し、生徒と検討して決めた。3年A組は「IN TERRA PAX」3年B組は「Soon-ah will be done」を選曲し、学習を進めることになった。それぞれ選んだ曲は異なるが、分析は各学級毎ではなく2学級合わせたもので行う。(分析データの詳細は【補充資料7】、生徒の記述例は【補充資料8】参照)

【資料2】表現領域での批評文を活用した授業実践の概要及び分析と考察

題材の目標：音楽の諸要素の働きと歌詞の内容により生まれる曲想を感じ取り、自己のイメージや感情の根拠を歌詞や曲の仕組みの中に見付け

段階	指導目標・指導内容の明確化		関連付ける																
時間	1	2	3																
学習の流れ	<p><b>学習内容の確認</b></p> <p>歌のイメージや雰囲気と音楽の諸要素の働きを確認する</p> <p>感じ取ったことを大切に音楽の諸要素と言葉の表現を考えていこう</p>	<p><b>曲の全体像をつかむ</b></p> <p>第一印象はどうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歌詞を読んだ感想</li> <li>範唱を聴いての感想</li> <li>表現の仕方考えたり深めたい部分はどこか、どのように表現してみたいか</li> </ul> <p>キーワードを歌詞の内容から探そう</p> <p>キーワードを曲のイメージから探そう</p>	<p>自分がもったイメージからなぜそのように感じたのか、曲に含まれている要素からどんな感じがしたのか考える</p> <p>感想を「イメージや雰囲気を表していること」と「音楽の諸要素」とに分類する</p> <p>結び付くことは並列に記入する</p> <p>分類してみれば片方が空欄になっているところは結び付くことを考えてつめる</p> <p>キーワードは音楽の諸要素によってどのように表現されているかな</p>																
	批評文の活用	<p>「音楽分析室」</p> <p>初発の受けとめ</p> <p>1 感じ取ろう…第一印象はどうか</p> <p>●歌詞を読んだ感想</p> <p>「はやく神様の所にいきたい」と思っている感じが伝わってきた。</p> <p>●歌の感想</p> <p>すごく明るい歌で、わくわくする感じが伝わってきた。最後2部には、ハモリが響きわたってきた。</p> <p>●イメージや雰囲気</p> <p>「想像の世界にいたい」と思っている感じが伝わってきた。</p> <p>●音楽の諸要素</p> <p>「想像の世界にいたい」と思っている感じが伝わってきた。</p> <p>「Im going to live with God」の歌詞が、想像の世界にいたい感じが伝わってきた。</p>	<p><b>批評文(1)を書くステップ(生徒の記述例)</b></p> <p>分類する 感性的側面・構造的側面</p> <table border="1"> <tr> <th>①イメージや雰囲気</th> <th>②音楽の諸要素</th> </tr> <tr> <td>はやく神様の所にいきたいと思ってる感じが伝わってきた。</td> <td>最後のハモリが響きわたってきた。</td> </tr> <tr> <td>「想像の世界にいたい」と思っている感じが伝わってきた。</td> <td>最初の「No more」を強く歌って強調している。</td> </tr> <tr> <td>「Im going to live with God」の歌詞が、想像の世界にいたい感じが伝わってきた。</td> <td>「Im going to live with God」の歌詞が、想像の世界にいたい感じが伝わってきた。</td> </tr> </table> <p>結びつける 感性的側面 ↔ 構造的側面</p> <table border="1"> <tr> <th>①イメージや雰囲気</th> <th>②音楽の諸要素</th> </tr> <tr> <td>はやく神様の所にいきたいと思ってる感じが伝わってきた。</td> <td>最後のハモリが響きわたってきた。</td> </tr> <tr> <td>「想像の世界にいたい」と思っている感じが伝わってきた。</td> <td>最初の「No more」を強く歌って強調している。</td> </tr> <tr> <td>「Im going to live with God」の歌詞が、想像の世界にいたい感じが伝わってきた。</td> <td>「Im going to live with God」の歌詞が、想像の世界にいたい感じが伝わってきた。</td> </tr> </table>	①イメージや雰囲気	②音楽の諸要素	はやく神様の所にいきたいと思ってる感じが伝わってきた。	最後のハモリが響きわたってきた。	「想像の世界にいたい」と思っている感じが伝わってきた。	最初の「No more」を強く歌って強調している。	「Im going to live with God」の歌詞が、想像の世界にいたい感じが伝わってきた。	「Im going to live with God」の歌詞が、想像の世界にいたい感じが伝わってきた。	①イメージや雰囲気	②音楽の諸要素	はやく神様の所にいきたいと思ってる感じが伝わってきた。	最後のハモリが響きわたってきた。	「想像の世界にいたい」と思っている感じが伝わってきた。	最初の「No more」を強く歌って強調している。	「Im going to live with God」の歌詞が、想像の世界にいたい感じが伝わってきた。	「Im going to live with God」の歌詞が、想像の世界にいたい感じが伝わってきた。
①イメージや雰囲気	②音楽の諸要素																		
はやく神様の所にいきたいと思ってる感じが伝わってきた。	最後のハモリが響きわたってきた。																		
「想像の世界にいたい」と思っている感じが伝わってきた。	最初の「No more」を強く歌って強調している。																		
「Im going to live with God」の歌詞が、想像の世界にいたい感じが伝わってきた。	「Im going to live with God」の歌詞が、想像の世界にいたい感じが伝わってきた。																		
①イメージや雰囲気	②音楽の諸要素																		
はやく神様の所にいきたいと思ってる感じが伝わってきた。	最後のハモリが響きわたってきた。																		
「想像の世界にいたい」と思っている感じが伝わってきた。	最初の「No more」を強く歌って強調している。																		
「Im going to live with God」の歌詞が、想像の世界にいたい感じが伝わってきた。	「Im going to live with God」の歌詞が、想像の世界にいたい感じが伝わってきた。																		
感受の傾向	<p><b>検証B (考察は18頁参照)</b></p> <p>初発の感想から分析(複数回答有り) %</p> <table border="1"> <tr> <td>主に感性的側面を感じ取っている生徒</td> <td>31.1 %</td> </tr> <tr> <td>主に構造的側面を知覚している生徒</td> <td>46.7 %</td> </tr> <tr> <td>感性的側面と構造的側面どちらにもふれている生徒</td> <td>40.0 %</td> </tr> <tr> <td>感性的側面と構造的側面を関連付けている生徒</td> <td>15.6 %</td> </tr> </table> <p>生徒Aの記述例</p> <p>A: 地球の雄大さが感じられる不思議な感じ</p> <p>生徒Bの記述例</p> <p>B: テンポがよくてハモリがたくさんあってきれいに聴こえる</p>	主に感性的側面を感じ取っている生徒	31.1 %	主に構造的側面を知覚している生徒	46.7 %	感性的側面と構造的側面どちらにもふれている生徒	40.0 %	感性的側面と構造的側面を関連付けている生徒	15.6 %	<p><b>検証C 批評文の記述状況</b></p> <table border="1"> <tr> <th>検証C</th> <th>批評文の記述状況</th> </tr> <tr> <td>分類 (7.5%)</td> <td>37.5% (A), 55.0% (B), 7.5% (C)</td> </tr> <tr> <td>結び付け (4.8%)</td> <td>61.9% (A), 33.3% (B), 4.8% (C)</td> </tr> <tr> <td>追発見 (4.7%)</td> <td>37.2% (A), 58.1% (B), 4.7% (C)</td> </tr> </table>	検証C	批評文の記述状況	分類 (7.5%)	37.5% (A), 55.0% (B), 7.5% (C)	結び付け (4.8%)	61.9% (A), 33.3% (B), 4.8% (C)	追発見 (4.7%)	37.2% (A), 58.1% (B), 4.7% (C)	
	主に感性的側面を感じ取っている生徒	31.1 %																	
主に構造的側面を知覚している生徒	46.7 %																		
感性的側面と構造的側面どちらにもふれている生徒	40.0 %																		
感性的側面と構造的側面を関連付けている生徒	15.6 %																		
検証C	批評文の記述状況																		
分類 (7.5%)	37.5% (A), 55.0% (B), 7.5% (C)																		
結び付け (4.8%)	61.9% (A), 33.3% (B), 4.8% (C)																		
追発見 (4.7%)	37.2% (A), 58.1% (B), 4.7% (C)																		
考察	<p>既習曲を用いて、音楽の諸要素について復習し、その働きによってどのような雰囲気やイメージが生まれているのか考える時間を設定した。ここで、これからの学習でどのような記号や用語を使えばよいのか、音楽の諸要素の働きとイメージや雰囲気を結び付ける視点を与えることで学習の方向性を示すことができた。生徒から「勉強してるって感じがする」という声があった。</p> <p>教材曲の学習に入り、新しい曲であり文化祭でも歌う曲なので生徒たちは意欲満ちであった。新鮮な気持ちで初発の感想を書いていた。感想を書く視点を4つ提示したが、説明が曖昧だったせいで、理解するのに時間がかかった生徒もいた。</p> <p>次の段階の批評文で関連付けを図るために必要な視点だったが、提示の仕方や発問を吟味する必要がある。</p>	<p>初発の感想を音楽の感性的側面と構造的側面に分類することは、37.5%の生徒が完全に実行できた。ほぼできた生徒も含めると92.5%に達する。若干、音楽の諸要素の欄にイメージや雰囲気を表していることを記入し、感性的側面と構造的側面を混同していた生徒がいた。これまでのところで一度シートを回収して添削をし、個別に指導をすればどの生徒もこの課題は解決できたと思われる。</p> <p>初発の感想を分類するとき、「イメージや雰囲気を表していること」と「音楽の諸要素」が結び付くものは「並列」に記入し、そうでないものはあてはまるほうだけに記入をして片方は空欄にしておくようにした。この手法により、視覚的に認識しながら結び付ける作業ができたと思われる。ただし、空いている片方の側面を考えて書くには、過去の学習の定着や個人の感受性、音楽経験により差が出る場所である。</p> <p>「追発見」として、もっと「イメージや雰囲気を表していること」と「音楽の諸要素」を結び付けるように促したが、半数以上の生徒はグループでの交流で共感したこと(自分が気付かなかったこと)を書き加えたにとどまった。グループで交流する前に、個人で考える時間を保証すればよかったと思うが、ここまででも書くこと考えることによりかなりのボリュームがあり、生徒たちに疲れが見えてきたこともあって書く活動を切り上げてしまった結果でもある。</p>																	



(3) 音楽的な感受の能力の変容状況

ア 事前事後調査の記述から ( 検証 A )

【表 8】及び【図 9】は、音楽的な感受の能力を高める構成要素についての事前事後調査の回答を、9頁【表 4】により分類し、変容状況をまとめたものである。その結果、どの項目も事前と事後では「1」や「2」の段階に属する人数が減り、「3」から「5」の段階に属する人数が増えている。特に設問3と設問5において顕著である。

(分析データは【補充資料7】参照)

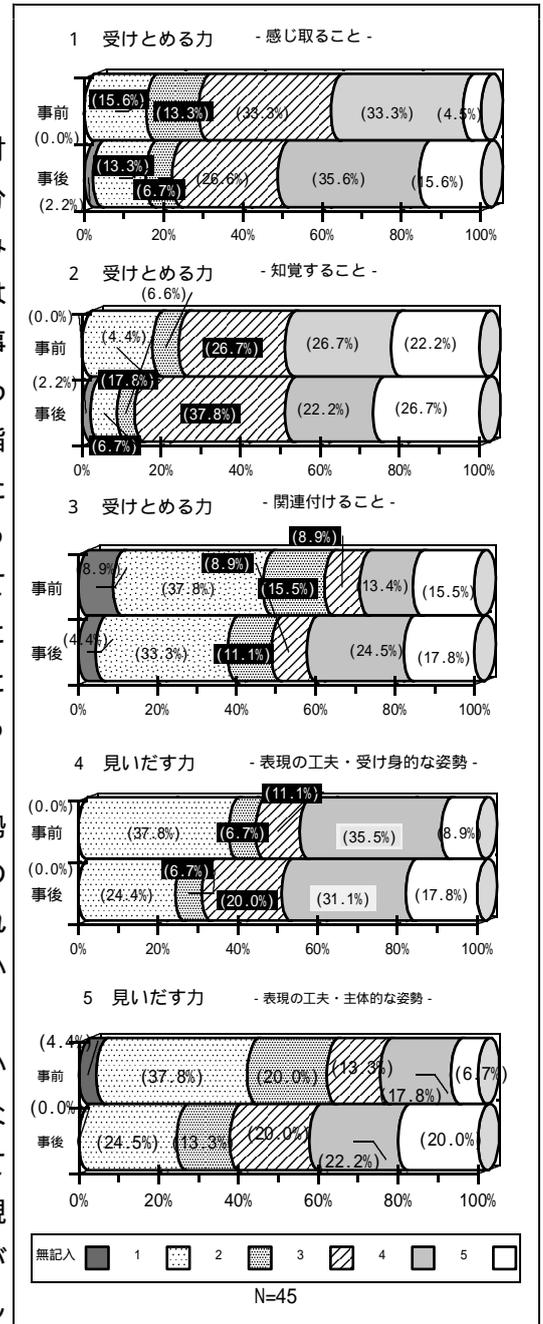
設問3は、音楽の構造的側面と感性的側面を関連付けることについての設問である。「歌の気に入った部分について、なぜその部分がよいと感じたのか考えてみる」という問いに対して、事前調査では「考えたことがない」と答えた生徒のほとんどが、事後調査ではプラス反応への変容がみられ、「考えてみようとした」ことが回答理由からうかがえる。指導目標と指導内容を明確にする段階で、教材曲の中で気に入ったところや印象に残ったところに注目させ、なぜ気に入ったのかその理由を考えてみたり、どのように表現してみたいか考えてみたりしたことを、初発の受けとめとして押さえたことにより、音楽のイメージや雰囲気とそれに関連する諸要素の働きについて考えてみるきっかけが作られたと考える。

設問5は、表現の工夫の仕方を見いだしていく姿勢を、受け身的な傾向(設問4)よりも質の高い表現の工夫ができる主体的な姿としてみたものである。これまで、表現の工夫をさせる指導が不十分だったことから、「表現の工夫を工夫しますか」という問いに対して、「表現の工夫」そのものがどういったものなのか分からないという生徒が多かった。事前では「あまりしない」という回答だったものが、事後では「たまにしている」に変容しているものが多く、回答理由にも表現の工夫をする面白さや楽しさを見いだしている記述が増えた。これは、授業の中で常に「どのように表現したいか」という問いかけをし、ただ楽譜どおりに歌う活動をさせるのではなく、生徒一人一人の音楽の受けめ方を生かすように、歌い方を考えていく働きかけをしたことによると考える。

次頁【表 9】は事前事後調査の回答を、9頁【表 4】により分類し、変容状況を図式化したものであり、次頁【表10】は回答理由から事前と事後で変容が見られた記述例である。

【表 8】回答理由の分類結果 N=45 (単位:人)

構成要素	受けとめる力						見いだす力			
	1 感じ取ること		2 知覚すること		3 関連付けること		4 表現の工夫 (受け身的)		5 表現の工夫 (主体的)	
段階	事前	事後	事前	事後	事前	事後	事前	事後	事前	事後
1	7	4	8	3	18	15	16	12	17	11
2	6	5	3	2	6	4	4	2	9	6
3	15	14	12	19	3	6	5	9	5	9
4	15	14	12	8	7	8	16	16	9	10
5	2	7	10	12	7	10	4	6	3	9



【図 9】回答理由の分類結果

【表9】回答理由の五つの質的な分類

**1 受けとめる力** 感じ取ること  
 【設問】合唱するとき、その歌の雰囲気や曲想を感じ取って、そこから自分  
 ながらのイメージをもって歌っていますか。  
 【選択肢】[ aよくしている bたまにしている cあまりしない dまったくしない ]  
 ( a, bは「+」の反応、c、dは「-」の反応とする )

	事前 (8)	事後 (20)	事前 (24)	事後 (14)
+ の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>声の強弱を付けやすい</li> <li>心を入れて歌いたい</li> <li>イメージをもって歌えばよい合唱になる</li> <li>なりきらなきゃつまらない</li> <li>歌いやすい</li> <li>楽しく歌える(2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>この曲の雰囲気を大事にするため</li> <li>歌の雰囲気にあった歌い方をしないといい歌ができない</li> <li>歌のイメージをもって歌ったほうがその歌の意味がわかる</li> <li>曲に入りやすいし、歌いやすかったりする</li> <li>イメージをもって歌うとどこを強調して歌うかがわかりやすい</li> <li>イメージをもって歌わないとつまらない</li> <li>イメージをもって歌ったほうが曲っぽい</li> <li>相手に伝わりやすい</li> <li>歌いやすい(4)</li> <li>楽しく歌える(2)</li> <li>気持ちよく歌える</li> <li>合唱が好きで自分なりのいい歌にしたい(2)</li> <li>そのほうがいい</li> <li>無意識に(2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌の雰囲気を出すため</li> <li>うまく歌える気がする</li> <li>楽しい(2)</li> <li>歌いやすい(5)</li> <li>少しイメージが浮かぶ</li> <li>勝手に浮かぶ</li> <li>知らず知らずのうちに歌がサイコー</li> <li>歌が好き(3)</li> <li>イメージをつかみやすいときとそうでないときがある(2)</li> <li>気が付いたときにイメージする</li> <li>浮かぶときと浮かばないときがある</li> <li>イメージできたときだけ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>きれいに八もったりしていい合唱になる</li> <li>曲によって難しいものもあるけど少しでもその曲の雰囲気を出せるようにしている</li> <li>心を入れて歌いたい</li> <li>そのほうがいい感じに歌える</li> <li>歌いやすくなるため</li> <li>歌いやすい(2)</li> <li>楽しい</li> <li>イメージをもって歌えばよい合唱になる</li> <li>自分の好きな歌の時にはイメージをもっている</li> <li>少し自然にわいてくる</li> <li>勝手に考えている</li> <li>自然に</li> <li>無記入</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>眠くなる</li> <li>やり方がわからない(2)</li> <li>何も考えていない(2)</li> <li>しよと思うない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>無意識に(2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲想を感じ取れないからイメージをもてない</li> <li>メロディに集中している</li> <li>歌うだけで精一杯(2)</li> <li>考える余裕がない</li> <li>イメージをもてない</li> <li>やるうと思わないしやり方がわからない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲によってイメージが浮かぶものと浮かばないものがある</li> <li>イメージをすると自分の世界に入ってしまう</li> <li>しよとするけどできない</li> <li>歌うだけで精一杯</li> <li>歌うことに集中している</li> <li>何も考えないで歌っている(2)</li> <li>よくわからない(2)</li> <li>わからない</li> <li>イメージをもてない</li> </ul>
		(6)	(0)	(7)

5つの質的な分類は、文字フォント [ 5 4 3 2 1 ] で区別した  
 —> は記述内容に高まりがあるもの、- - -> は+方向に変容したもの(いずれも記述した生徒は同一者)  
 理由の内容は「のべ」の記述であり、表枠点線上( )の数字は、選択肢「a」「b」「c」「d」とそれぞれ回答した生徒の数である

設問1をみると、事前調査では「なんとなくそのほうがいい」「歌が好きだから勝手に浮かんでくる」といったような、思考を伴わない感覚的な内容が多い。それが事後では、音楽のイメージや雰囲気を感じ取って歌うことの面白さや楽しさを受けとめている記述が増え、「イメージをもって歌うとどこを強調して歌えばよいか分かりやすい」といった構造的側面に

【表10】変容が見られた記述例

( 事前 a 事後 )

【設問1】自分なりのイメージをもって…(感じ取ること)	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽しいし歌いやすい a どこを強調して歌うかなどがわかりやすい</li> <li>歌いやすい a 歌の雰囲気にあった歌い方をしないといい歌ができない</li> </ul>
【設問2】曲にあったリズムやテンポ、強弱を生かして…(知覚すること)	<ul style="list-style-type: none"> <li>無意識のうちに a 強調したいところがある</li> <li>楽しく歌いたい a 合唱の雰囲気が変わる</li> </ul>
【設問3】歌の気に入った部分について、よいと感じる理由を考える…(関連付けること)	<ul style="list-style-type: none"> <li>よいと感じるだけで a 気に入っている理由がないと変な感じがするも充分</li> <li>あまり考えない a その曲が好きになれる</li> </ul>
【設問4】歌い方を工夫するために楽譜の記号や用語を生かす…(受け身的な表現の工夫)	<ul style="list-style-type: none"> <li>気が付いたときは意 a 記号がないとずっと平坦な曲になってしまう識して歌っている</li> <li>強弱は気にするけど a 記号なしで歌うと歌の雰囲気が出せないときがある他の記号はあまり気にしない</li> </ul>
【設問5】自分なりに歌のよさを生かす表現の仕方を工夫する…(主体的な表現の工夫)	<ul style="list-style-type: none"> <li>あまりわからない a この歌をいいものに仕上げてみんなに聴いてほしいというとき</li> <li>どんな表現をしたら a 歌いやすいよいかわからない</li> </ul>

結び付けるような記述になった。設問2ではあまりめだつた変容は見られないが、事後の回答理由には、楽譜に記号があるから強弱をつけるのではなく、リズムや強弱・テンポの変化などの音楽の構成

要素を生かして歌うことによって「盛り上がりや張りが生まれ、歌のよさを伝えることができる」「合唱の雰囲気が変わる」「イメージが膨らむ」といった感性的側面と結びつけた記述が 見られた。これらは、指導目標と指導内容を明確にする段階で、既習事項の復習も含めて音楽の諸 要素を確認することによって、知覚する構造的側面がより鮮明に受けとめられたためと考える。このことは、音楽の感性的側面と構造的側面を関連付けることにもつながっていると考えられる。

設問4の事前調査の回答記述からは、楽譜に書いてあることを生かして歌えば「いい合唱になる」といった受け身的な姿勢が強いことがうかがえる。事後調査では、「記号なしだと歌の雰囲気が出せないときがある」「記号がないとずっと平坦な歌になってしまう」といった表情記号や音楽的な用語の必要性を感じ取っている記述が見られた。

イ 感受の傾向の変容状況から

( 検証B 分析データは14頁～15頁【資料2】、【補充資料7】資16参照)

初発の受けとめでは、これまで学習したことや生徒個々の経験や嗜好から受けとめたことが記述されおり、この段階では具体的な記述は少ない。その後、批評文(1)(2)を書き、その内容をグループに分かれて交流し合ったところ、自分が知覚しなかったことや感じ方や受けめ方の違いを互いに知り合うことで、初発の受けとめで知覚したことや感じ取ったことが深まっていった。

交流 (批評文(1))では、初発の受けとめでは構造的側面の知覚が優位だった生徒が感性的側面に目を向けるようになり、感性的側面の感じ取りが優位だった生徒が構造的側面に目を向けるようになったことが交流の感想から読み取れる。交流 (批評文(2))の感想からは、学習のねらいである表現の工夫の仕方に着目した記述が見られた。また、それぞれの「イメージスコア」から音楽を知覚し感じ取り、表現するということを総合的にとらえた記述も見られ、学習したことを表現活動につなげていこうとする意欲が感じられた。音楽の構造的側面や感性的側面、表現の工夫について受けとめが浅い生徒は、交流の回数が増すにつれて少なくなった。

さらに交流 では、【表11】のように、お互いの表現の工夫のよさや、共通点・相違点を知り合うことによって音楽を受けとめる

【表11】交流 の発表内容

幅を広げた。このような交流をとおして、お互いの考えを受けとめ合うことで、自分たちらしい、学級の持ち味を生かした合唱表現への期待や意欲が生まれてきたことが、授業後の感想から読み取ることができた。

(【補充資料8】資19参照)

以上のように、生徒の記述から、音楽を受けとめる様子と見いだす様子を分析、考察することによって、音楽的な感受の能力の繊細な変容をとらえることができた。

批評文(2)「イメージスコア」をグループで交流した後、交流の様子を以下の三つの観点から整理して、学級全体で交流した。(抜粋)

	3年A組「IN TERRA PAX」	3年B組「Soon-ah will be done」
ていぐたこい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての人が強弱について考えていた。</li> <li>・「In terra pax」「I」と「P」を強調するところと「地球に愛を僕らに夢を」の所は流れに乗っている感じでやさしく表現する。「鳥も木も草も」はアクセントをつけたり、cresc.を付けたりとみんなほとんど同じ。「さあ野辺に出よう」と最後の「ララ…」も流れる感じの表現が多かった。</li> <li>・「鳥も木も草も」をどんどん大きくしていく。</li> <li>・「In terra pax 地球に愛を僕らに夢を」が流れる感じ。「鳥も木も草も」だんだん強くなっていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・強弱の付け方が似ていた。</li> <li>・強弱の付けるところを工夫していた。</li> <li>・歌詞の意味に着目していた。</li> <li>・アクセントや強弱の付け方。「I want meet my mother」を強く発音し、バスのパートの「No more wait'in」を弱く歌う感じ。</li> <li>・力強くとはっきりと強調するところをみんな濃く描いていた。同じ部分について考えていた二人は、どちらもはっきりと発音しようとしていた。</li> </ul>
と工夫とその仕方が内容々だった	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ「さわさわと」「とくとくと」の部分でも、一人は強弱一人はその部分を歌った後の盛り上がり方を表しているという違いがあった。</li> <li>・「人は生きる」をテンポよくという人と、キレよくという人がいた。</li> <li>・「人は生きる」をだんだん弱くしている人と、逆にだんだん強くしている人がいた。</li> <li>・「In terra pax 地球に…」で波のような表現と鋭い表現とあまり動かない表現があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラストの部分で全体を強調している人と部分的に強調している人がいた。</li> <li>・同じ部分でも、一人は大きく描いていて一人は太字で描き、一人は太字と大きく描いて表現していた。</li> <li>・伸ばすところが違っていた。その場面にあった強弱の付け方に気を付けて工夫している人がいた。</li> <li>・強弱を付けるところが人によって違っていた。</li> </ul>
評だぐら	<ul style="list-style-type: none"> <li>・線を使って強弱や盛り上がり方を表す</li> <li>・「人は生きる」の「h」の発音に気を付けるということ。</li> <li>・「In terra pax 地球に」でメロディーに抑揚を付けて表現していた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字を濃くしたり囲んだりする強弱の仕方がよかった。</li> <li>・同じ所をわざわざ2回描いていた。</li> <li>・わかりやすくするため太字で描くことと目立たせるため大きく書くこと。</li> <li>・「I meet」の強調の所と「meet my」のソプラノが上を伸ばすところ。</li> <li>・字の濃さや大きさで強調や強弱伸ばすところが見やすかった。</li> </ul>

## 5 中学校音楽科における音楽的な感受の能力を高める指導に関する研究のまとめ

これまで、手だての試案に基づく授業実践を行い、実践結果の分析と考察をとおしてその妥当性について検討してきた。その結果から、中学校音楽科において音楽的な感受の能力を高める指導の成果と課題についてまとめる。

### (1) 成果

- ア 知覚したことと感じ取ったことを関連付けて批評文に書き表し、目に見える形にさせた。このことによって、生徒の感受の傾向や受けめたことの中身、学習したことがどのように理解されているかを把握することができ、さらに生徒の記述を質的に見取ることで音楽的な感受の能力の変容をとらえることができた。
- イ 指導目標及び指導内容を明確にし、批評文を書くときの視点として提示することで、表現領域において指導過程の展開で批評文を活用することができた。
- ウ 批評文を書いていく過程の中で、考えたことや受けとめたこと、見いだしたことが経験的に積み重なって変容していく様子を、批評文や交流での感想の記述によって見取るすることができた。
- エ 生徒なりの受けとめを大切にし、一人一人がイメージしたことや表現の工夫をしたことを表出させることで、お互いのよさに気づき個性的な表現を受け入れて、自分たちらしい合唱を作りたいという雰囲気をつくり、主体的に表現を見いだす姿を見ることができた。
- オ 批評文の記述内容を交流し合うことによって、自分が知覚したことや感じ取ったことを認識させることができた。また、他の人が知覚したことや感じ取ったことを知り合わせることもつながった。このことにより、音楽的な感受の幅を広げることができた。

### (2) 課題

- ア 批評文の内容がねらいにそったものになるように、感性的側面と構造的側面を関連付けるときの指示は的確にすること。また、生徒が批評文を記述する過程を丁寧に見取り、添削するなどして適宜個に応じた対応をすること。
- イ 表現の工夫をする批評文に書き表したことを実演するときに躊躇することがある。表現することに対する抵抗感に配慮し、批評文と実演のつなげかたを工夫をすること。
- ウ 批評文の読み取りに時間がかかる。明確な視点や評価項目を押さえて、端的に効率よく読み取る方法を工夫すること。
- エ 批評文を書く量が多くなってしまうと、時間の保証が難しい。歌いたい生徒にとってはストレスを感じることもあるので、演奏や鑑賞の活動とのバランスを考えて設定すること。

以上のことから、課題はあるものの、中学校音楽科において、指導目標・指導内容を明確にし、表現領域で批評文を活用したことで、音楽の諸要素の働きやイメージ、雰囲気を受けとめ、構造的側面と感性的側面を関連付けることができるようになった。また、受けとめたことを生かして、自分なりに表現の工夫をし、歌唱表現の仕方を見いだしていく生徒の姿が見られた。よって、手だての試案は妥当であり、音楽的な感受の能力を高める上で効果があったと考えられる。

## 研究のまとめと今後の課題

### 1 研究のまとめ

この研究は、表現領域で批評文を活用することにより、中学校音楽科において音楽的な感受の能力を高める指導について明らかにし、中学校音楽科の指導の改善に役立てようとするものであった。その結果、仮説が有効であることが確かめられた。なお、成果として、次のことが得られた。

- (1) 中学校音楽科における音楽的な感受の能力を高める指導に関する基本構想の立案  
中学校音楽科における音楽的な感受の能力を高める指導に関する基本的な考え方や表現領域で批評文を活用した学習指導の展開について明らかにし、基本構想としてまとめることができた。
- (2) 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察  
手だての試案を作成するにあたって、生徒の感受の傾向、批評文の記入に対する抵抗感、表現の工夫をする方法、批評文を活用した意見交流での意識や態度を把握するために、調査を行った。調査から明らかになったことから手だての試案作成上の留意点をまとめることができた。
- (3) 表現領域で批評文を活用した手だての試案の作成  
基本構想に基づき、また、実態調査から明らかになったことに留意しながら、手だての試案を作成することができた。指導目標・指導内容を明確にし、音楽の構造的側面と感性的側面を関連付ける批評文とイメージしたことを具体化する批評文を活用した学習指導案作成のための手だての試案とすることができた。
- (4) 授業実践及び実践結果の分析と考察  
表現領域で批評文を活用した指導についての手だての試案に基づき、題材「イメージと強弱や旋律の特徴を関連付けた合唱表現」（第3学年）の授業実践を行った。その結果、表現領域で批評文を活用した手だての試案が、中学校音楽科の授業において音楽的な感受の能力を高める上で効果があることが分かった。また、実践結果の分析と考察により、手だての試案の妥当性をみることができた。それは、表現領域で批評文を活用した授業について、生徒の批評文の記述内容や活動状況の変容からも確かめられた。さらに、交流活動をとおして表現の幅を広げる姿を見ることができ、手だてを有効にする上で、批評文を交流することは有意義であった。
- (5) 中学校音楽科において音楽的な感受の能力を高める指導に関する研究のまとめ  
中学校音楽科において音楽的な感受の能力を高める指導に関する指導について、成果と課題を明らかにすることができた。

## 2 今後の課題

本研究を今後より生かすための課題として次のようなことがあげられる。

- (1) 音楽的な感受の能力が、段階的・経験的に深まっていくようにするために、学習内容を精選するとともに批評文を計画的に活用すること
- (2) 評価規準と批評文の活用との関連性を明確にし、短時間で見取る工夫をすること

おわりに

長期研修の機会を与えてくださいました関係諸機関の各位並びに所属校の諸先生方と生徒のみなさんに心から感謝を申し上げ、結びのことばといたします。

## 【参考文献】

- 金本正武著（1998）,『音楽科授業論』,東洋館出版社  
北尾倫彦・藤沢章彦・高谷守宏編集（2002）,『平成14年版 観点別学習状況の新評価規準表 中学校・音楽 - 題材の評価規準とA B C判定基準 - 』,株式会社図書文化社  
西園芳信監修（2003）,『中学校音楽科の指導と評価』,暁教育図書株式会社

# 補 充 資 料

## - 目 次 -

【補充資料1】実態調査用紙 .....	資1
【補充資料2】指導目標・指導内容の明確化 .....	資3
「評価・歌唱にかかわる指導事項と指導内容」	
【補充資料3】事前事後調査用紙 .....	資4
【補充資料4】学習指導案 - 展開案 .....	資5
【補充資料5】題材「イメージと強弱や旋律の特徴を関連付けた合唱表現」評価計画 .....	資9
【補充資料6】学習シート .....	資10
・No.1 音楽分析室 .....	資10
・No.2 「感じ取ったことを大切に」1(初発の感想) .....	資11
・No.3 「感じ取ったことを大切に」2(批評文(1)) .....	資11
・No.4 「イメージスコア」(批評文(2)) .....	資11
・「INTERCHANGE CARD」 .....	資11
【補充資料7】検証分析データ .....	資12
・検証A 事前事後調査分析 回答理由の記述 の五つの質的な分類 .....	資12
・事前事後調査分析2 - 数値編 .....	資15
・検証B C 批評文(1)一覧 .....	資16
・検証D 批評文(2)一覧 .....	資17
【補充資料8】生徒の記述例 .....	資18
・イメージスコア .....	資18
・生徒の感想 .....	資19
・生徒の楽曲紹介文 .....	資20





【補充資料2】指導目標・指導内容の明確化

表現・歌唱にかかわる指導事項と指導内容

構造的側面		感性的側面		学習指導要領 指導事項
要素	内容	音楽によって喚起されるイメージや感情		
構成要素	音色	曲にふさわしい音色 音色・音質の特性	歌詞の内容	ア 歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい歌唱表現を工夫すること
	リズム	拍子の特徴 拍子のまとまり感 リズムパターンの反復・変化 非拍節の自由な動き		情景 イメージ
	旋律	音のつながり方 旋律線のもつ方向性 長音階・短音階・調性のない 我が国・世界の諸民族の音楽に用いられる音階	曲想 美しさ	エ 声部の役割を生かし、全体の響きに調和させて合唱や合奏をすること
	和声を含む音と音とのかわり合い	各声部の特徴や役割 機能和声・我が国・世界の諸民族の音楽に用いられる音と音とのかわり合い 多声音楽	豊かさ 表情 感情	キ 音色、リズム、旋律、和声を含む音と音とのかわり合い、形式などの働きを理解して表現の工夫をすること
	形式	構成原理 反復・変化・対照・起承転結 パターンの連鎖と積み重ね・二部・三部形式	心情 雰囲気	ク 速度や強弱の働きによる曲想の変化を理解して表現の工夫をすること
	表現要素	強弱	働きとその効果 徐々に変化する幅 相対的な対比 ふさわしい強弱	
速度		働きとその効果 徐々に変化する幅 相対的な対比 ふさわしい速度		

## 音楽の学習についてのアンケート

3年 組 番 名前

このアンケートは、あなたが音楽の学習について、どのように思っているのかを知るためのものです。次の1～5の質問について、自分の気持ちに一番近いと思うものを、一つ選んで記号に をつけてください。

1 合唱するとき、その歌の雰囲気や曲想を感じ取って、そこから自分なりのイメージをもって歌っていますか。

- a よくしている    b たまにしている    c あまりしない    d まったくしない  
それはなぜですか( )

2 合唱をするとき、その曲にあったリズムやテンポ、強弱を生かして歌っていますか。

- a よくしている    b たまにしている    c あまりしない    d まったくしない  
それはなぜですか( )

3 合唱曲に取り組んでいて、気に入った部分があったとき、どうしてその部分がよいと感じるのか、その理由を考えてみるがありますか。

- a とてもある    b 少しある    c あまりない    d まったくない  
それはなぜですか( )

4 合唱するとき、歌い方を工夫するために、楽譜に書いてある記号や用語を生かして歌っていますか。

- a よくしている    b たまにしている    c あまりしない    d まったくしない  
それはなぜですか( )

5 合唱するとき、自分なりにその歌のよさを生かす表現の仕方を工夫しますか。

- a よくしている    b たまにしている    c あまりしない    d まったくしない  
それはなぜですか( )

音楽のおもしろさやよさはどんなところにありますか。あなたの考えを書いてください。

【補充資料4】学習指導案 - 展開案

第1次 全体像をつかむ・・・2時間扱い

- 目標：曲のイメージや曲想を感じ取り、より豊かに表現したいところを見つけよう  
 歌を味わい、表現の仕方を考えたり深めたりすることに関心をもつ（観点1 - ）  
 曲のイメージや曲想を感じ取り、知覚したその曲を特徴付けている要素を書き出す（観点2 - ）

1時間目	学習活動	指導の流れ（働きかけ 手だてにかかわる留意点）
導入	1 既習曲を歌う	・ウォーミングアップをして、スムーズに歌えるように雰囲気や体をほぐす
展開	2 本時の学習課題を確認する 『音楽分析室』 楽譜を分析して、歌のイメージや雰囲気と音楽の諸要素の働きを確認しよう	
	3 既習曲をアナリーゼする 歌の特徴的な部分を出し合う  気付いたこと、見付けたことを書き出す（黒：エンピツ）  パートで交流し、全体に紹介する（模造紙に書き込む） 自分では気が付かなかったことは色ペンで書き加える	・既習曲を歌う（又は聴く） この歌の特徴的な部分をあげてみよう 「だった」「まっすぐ」などの促音の表現のおもしろさ ヒント・・・楽譜を眺めて気が付くこと 強弱記号がたくさんある パート毎にずれて入る部分がある など 「例」としてプリントに書き込ませる（模造紙で教示） プリント「音楽分析室」- 1に書き込んでみよう（相談可） ・記入の仕方について説明する 1) どの部分かは、“場面”の欄に歌詞（や小節番号）で書く 2) 記号や音の動きの働きがどのようになっているか、自分の言葉で説明するように書く 3) その部分がどんな感じがするのか、イメージや雰囲気を自分の言葉で説明するように書く “働き” “どんな感じ” はどちらから書いてもよい 4) その部分に影響している記号があったら“記号”の欄に書く 5) “要素”の欄に“働き” “記号”の欄に書いたことを手がかりに、音楽のどのような要素がかかわっているか書く（要素はカードにして提示） もう一歩深めた学習をしよう ・教師からの提示 別紙（大切な要素、生徒が気が付かない部分、うまく言葉にできない部分を説明する） 転調の効果 言葉の抑揚と旋律「たてた」 上行形とcresc. 下行形とdecresc. rit. a tempo スラーとフレーズ 音の跳躍 アクセントとテヌート 等 ・その他にもあったら、プリントに色ペンで書き込ませる
	4 教材曲のアナリーゼをする	
	5 教材曲の主旋律を歌う	
終末	6 次時の学習内容を知る	プリント「音楽分析室」- 2に従って楽譜に書き込みをしよう 拍子・調性・小節番号・形式（ブロック）番号・パートチェック  ・全体像をつかませる  次の時間は、曲のなかみに入っていくよ
2時間目	1 教材曲の主旋律を歌う	・ウォーミングアップをして、スムーズに歌えるように雰囲気や体をほぐす
導入	2 本時の学習課題を確認する 曲のイメージや曲想を感じ取り、より豊かに表現したいところを見つけよう	
展開	3 曲の全体像をつかむ  歌詞を朗読する 範唱を聴く	・【学習シートNo,2-1】・・・第一印象はどうか？ 初発の受けとめ 感想と好きな部分や気に入った部分を書かせる（理由も） 歌詞の内容からどのようなイメージをもったか、感想を書こう 範唱を聴いてどのようなイメージをもったか、感想を書こう
	4 キーワードを探す 歌詞の中から 歌の雰囲気から	・【学習シートNo,2-2】にキーワードを書かせる 歌詞の中でポイントになっている言葉を考える 歌のイメージや雰囲気をひと言で表すような言葉を考える ・出てきたキーワードをカードにして貼っておく [カード]
	5 パートの音をとる	・ローテーションでパートテープを聴く、教師と一緒に歌う
	6 表現の工夫をしたい部分をピックアップする	・【学習シートNo,2-3】 曲の中で、表現の仕方を考えたり深めたりしたい部分はどこですか（歌詞・ドレミなどの音名・小節番号・ブロック番号）で書こう その部分をどのように表現してみたいと思っているか書こう
終末	7 次時の学習内容を知る	取り上げた部分やキーワードなどから、もっと曲の中身に迫っていく

第2次 関連付ける・・・2時間扱い

目標： 自分がもったイメージから、なぜそのように感じたのか、曲に含まれている要素からどんな感じがしたのか考えよう

曲のイメージと諸要素の働きや旋律の特徴との関連に関心をもつ（観点1 - ）

構造的側面の具体的な諸要素を提示し、感性的側面と関連付ける（観点2 - ）

感じ取ったことや、聴き取ったことがよく伝わるように表現している（観点3 - ）

3時間目	学習活動	指導の流れ（働きかけ 手だてにかかわる留意点）
導入	1 パート練習、合唱する	・ウォーミングアップをして、スムーズに歌えるように雰囲気や体をほぐす
展開	2 本時の学習課題を確認する 自分がもったイメージから、なぜそのように感じたのか、曲に含まれている要素からどんな感じがしたのか考えよう	・イメージを大切に各自が指摘した部分の表現を意識させながら歌わせる
	3 歌のイメージと諸要素の分類をする	・【学習シート No,3-1】 前の時間に書いた感想の内容を、「音楽分析室」で学習したことを思い出して、イメージや雰囲気をあらわしていることと、音楽の諸要素とに分けてプリントに書こう そのとき、イメージや雰囲気と音楽の諸要素が結びつくようであれば、横に並べてつながるように記入する。結びつかず、それぞれバラバラの内容であれば、段をずらして別々の項目になるように書く[板書例] 書き終えたら、区切り線を引かせる
	4 キーワードを探る	キーワードが音楽の諸要素によってどのように表現されているか考えよう ・キーワード（言葉）の表現 構造的側面とのかかわりを知らせる アクセント、抑揚、強弱など、アーティキュレーション、必要に応じて場面によっては範唱を聴いてみる
	5 歌のイメージや雰囲気と音楽の諸要素の働きとのかかわりを探したそう	・【学習シート No,3-1】 このように、私たちが感動したり、癒されたりといった歌の味わいは、歌詞の内容、言葉の表現と音楽の諸要素の働きがかかわりあって生み出されています。このことに具体的にたくさん気が付けることは、音楽をより深く、より身近に感じることに繋がります。 ここが今回の授業でとても重要な部分なので、【学習シート No,3-1】で分類したことをもっと増やしてふくらませてみよう。（相談不可） まず、分類したことでらんが片方だけになっているところがあったら、もう片方を埋めてみよう（色ペンで）。ない場合は、曲の中にまだまだそういう（歌のイメージや雰囲気と音楽の諸要素の働きとのかかわりある）部分があるので、探して区切り線の下に書き足していこう（色ペンで）。 ヒント・・・「キーワード」「音楽分析室」
終末	6 次時の学習内容を知る	さらに、一つでも二つでもいいので、区切り線の下に増やしていこう。 このシートに記入したことを発表しあうよ
4時間目	1 パート練習、合唱する	・ウォーミングアップをして、スムーズに歌えるように雰囲気や体をほぐす
導入 展開	2 本時の学習課題を確認する （前時の続き） 感じ取ったイメージや雰囲気と音楽の諸要素のかかわりをたくさん見つけよう	・イメージや雰囲気と音楽の諸要素の働きを意識させながら歌わせる 書き終えたら、区切り線を引かせる
	3 グループで交流する	・【交流カード】 【学習シート No,3-1】に書いた内容をグループ内で発表し合います グループは・・・ グループの人の発表を聴いて、共感できるものがあったら、区切り線の下に色ペンで書き足して下さい。 グループで批評文を交流することによって、それぞれが受けとめたことや見いだしたなかみの違いや共通点を知りあえるようにする。
終末	4 本時のまとめをする	グループの人の発表を聴いた感想を書こう
	5 次時の学習内容を知る	次の時間は、ここまでの学習を生かして、実際に表現するための工夫を考えよう

## 第3次 表現の工夫をする・・・3時間扱い

標：歌詞や曲想にあった表現の工夫をして、より豊かな合唱表現を見つけよう

批評文を生かして意欲的に表現の工夫をする。(観点1 - 、 )

批評文に書いたことをもとに、表現の工夫をする(観点2 - 、 )

音楽の諸要素の働きと歌詞の内容により生まれる曲想から自己のイメージや感情を生かして、歌唱表現をする(観点3 - 、 )

5時間目	学習活動	指導の流れ(働きかけ 手だてにかかわる留意点)
導入	1 パート練習、合唱する	・スムーズに歌えるように、雰囲気や体をほぐす ・キーワードやイメージを大切に、各自が指摘した部分の表現を意識させながら歌わせる
展開	2 本時の学習課題を確認する イメージや雰囲気を感じ取ったこと、音楽の諸要素を生かして表現の工夫をしよう	
	3 表現の工夫をする どんなふうに表現したいか  イメージスコアに表現の工夫をするアイデアを書く	・【学習シート No.4 イメージスコア】 ここまでの学習を通して、さらに「こんなふうに歌ってみたい、あんな感じで表現したい」というこの曲に対する思いがふくらんでいるとよいです。【学習シート No.4】にこの曲全体をどのように表現したいか、【学習シート No.2-3】でピックアップした部分について考えが深まって、もっとうつしたいということを書き加えよう。また、別の部分でも「こんなふうに歌ってみたい、あんな感じで表現したい」という気持ちになったところがあったら、書いてみよう。 <b>実現するために必要な諸要素の設定、技能的なことを考えさせる</b> 【学習シート No.2,4-1】に書いたことをもとに、実際に表現するためにどのようにしたらよいか工夫点を考え、イメージスコアにアイデアを書こう。 ・記入の仕方について説明する 1) 全部だと大変なので、自分がピックアップしたところだけに限定 2) イメージスコアは[楽譜][歌詞][白紙]の3種類の用紙を準備  (自分の書き込みしやすいものを使う) 3) 自分の思いや考え、学習シートに書いたことを目で見分けるように自由に工夫して示してみよう。線・文字の大きさ・注意書き・囲み・イラストなど何でもよい。 書いているうちにアイデアが浮かんだら、どんどん増やしてよい - 作業 -
終末	4 次時の学習内容を知る	・書き上げたら提出 コピー  次の時間は、このイメージスコアをグループで交流します。
6時間目	1 イメージスコアを想起しながら合唱する	・それぞれがイメージスコアに書いたことを意識して歌うようにさせる
導入		
展開	2 本時の学習課題を確認する イメージスコアを生かして、表現の幅を広げよう	
	3 イメージスコアの交流・工夫点をグループ内で発表する	アイデアを書き込んだ楽譜をグループ毎にコピーし、配布する 交流会の進め方を説明し、役割分担をする ・【交流カード】 発表する前に、「表現の工夫をした部分」と「なぜその部分を選んだのか(理由)」を話し、「どんな考えでどのように表現を工夫してみたのか」実演しながら説明してください 発表が終わったら【交流カード】に全体的な感想とグループの人へのアドバイスを記入してください 発表3分(×3)+カード記入3分 観察・ビデオ撮影
終末	4 発表の内容をグループでまとめる	グループ内でどのような表現の工夫が発表されたか、全体で紹介できるように相談する。(まとめるポイントを提示する 補助シート)
	5 次時の学習内容を知る	グループ内でどのような表現の工夫が発表されたか、簡単に紹介してもらいます。

7時間目	学習活動	指導の流れ（働きかけ 手だてにかかわる留意点）
導入	1 自分なりの工夫を生かして合唱する	・イメージスコアを生かして表現の工夫をしたところを、実際に歌で表現するように歌わせる
展開	2 本時の学習課題を確認する	表現の工夫を交流し合って、表現の幅を広げよう
	3 各グループの発表の内容を全体に紹介する	・【交流カード】 グループ内でどのような表現の工夫が発表されたか、簡単に紹介してもらいます。 観察・ビデオ撮影 2分×6グループ 発表がおわったら【交流カード】に感想を記入します
	4 まとめのパート練習をする	・これまでの学習を通して考えたこと、感じ取ったこと、表現の工夫をしたことを生かすように歌わせる ・お互いの表現の工夫を取り上げて歌ってみる
終末	5 題材のまとめをする	・それぞれの感じ取り方、表現の工夫を大切にしながら、これからの合唱活動への意欲を喚起するようにする

【補充資料5】題材「イメージと強弱や旋律の特徴を関連付けた合唱表現」評価計画

【A 表現・歌唱】

	観点1 音楽への関心・意欲・態度	観点2 音楽的な感受と表現の工夫	観点3 表現の技能
内容のまとめ りごと と評 価規 準	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌詞の内容や曲想、曲種に応じた発声や美しい言葉の表現、声部の役割と全体の響きに関心を持ち、曲にふさわしい歌唱や合唱の表現をすることに意欲的である</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽の構成要素・表現要素を知覚し、それらが生み出す曲想の美しさを感じ取っている</li> <li>歌詞の内容や曲想の味わい、曲種に応じた発声や言葉の特性、声部の役割と全体の響きの調和を感じ取っている</li> <li>歌詞の内容や曲想の味わい、曲種に応じた発声や言葉の特性、声部の役割と全体の響きの調和を感じ取って歌唱や合唱の表現の工夫をしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌詞の内容や曲想、曲種に応じた発声や言葉の特性を生かして歌唱表現する技能（読譜を含む）を身に付けている</li> <li>声部の役割を生かし、全体の響きに調和させて合唱表現をする技能を身に付けている</li> </ul>
題材の 評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽の諸要素の働きと歌詞の内容により生まれる曲想に関心を持ち、自己のイメージや感情の根拠を歌詞や曲の仕組みの中に見付けることに意欲的である</li> <li>曲のもっているよさや特質を味わい、自己のイメージや感情を生かして曲にふさわしい歌唱表現をすることに意欲的である</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽の諸要素の働きと歌詞の内容により生まれる曲想を感じ取り、自己のイメージや感情の根拠を歌詞や曲の仕組みの中に見付けている</li> <li>曲のもっているよさや特質を味わい、自己のイメージや感情を生かして曲にふさわしい歌唱表現を工夫している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽の諸要素の働きと歌詞の内容により生まれる曲想を感じ取り、自己のイメージや感情を生かして歌唱表現をする技能を身に付けている</li> <li>曲のもっているよさや特質を味わい、自己のイメージや感情を生かして曲にふさわしい歌唱表現をする技能を身に付けている</li> </ul>
学 習 活 動 に お 具 け 体 る の 評 価 規 準	<p>歌を味わい、表現の仕方を考えたり深めたりすることに関心をもっている</p> <p>曲のイメージと諸要素の働きや旋律の特徴との関連に関心をもっている</p> <p>批評文を生かして意欲的に表現の工夫をしている</p> <p>言葉の抑揚、アクセント、リズム、語感による特性、濁音・鼻濁音などの美しい表現の仕方に関心をもっている</p>	<p>曲のイメージや曲想を感じ取り、知覚したその曲を特徴付けている要素を書き出している</p> <p>自己のイメージや感情の根拠を歌詞や曲の仕組みの中に見付け、構造的側面の諸要素と感性的側面とを関連付けている</p> <p>批評文に書いたことをもとに表現の工夫をしている</p> <p>言葉の抑揚、アクセント、リズム、語感による特性、濁音・鼻濁音などの美しい表現の仕方を感じ取って歌唱表現を工夫している</p>	<p>感じ取ったことや、聴き取ったことがよく伝わるように表現している</p> <p>自己のイメージや感情を生かして曲にふさわしい歌唱表現をする技能を身に付けている</p> <p>言葉の抑揚、アクセント、リズム、語感による特性、濁音・鼻濁音などの美しい表現の仕方を生かして歌唱表現をする技能を身に付けている</p>



# INTERCHANGE CARD

交流 音楽学習シート No,2-1 「歌のイメージと音楽の諸要素」をグループで発表しよう

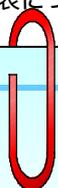
発表を聴いた感想



交流 「イメージスコア」を発表しよう

「イメージスコア」と「表現の工夫」の発表について感想を書き、同じグループの仲間にひと言アドバイスを書こう

発表を聴いた感想



さんへひと言アドバイス



さんへひと言アドバイス

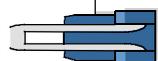


さんへひと言アドバイス



交流 交流 で発表された表現の工夫を、みんなに紹介しよう

発表を聴いた感想



【補充資料7】検証分析データ

検証A - 事前事後調査分析 回答理由の記述 の五つの質的な分類 -

理由の内容は「のべ」の記述である

表枠点線上( )の数字は、選択肢「a」「b」「c」「d」とそれぞれ回答した生徒の数であり、「a」「b」は+反応「c」「d」は-反応として処理した

5つの質的な分類は、文字フォント[ 5 4 3 2 1 ]で区別した

記述右の( )は回答した生徒の数であり、ないものは各1名である

——▶ は記述内容に高まりがあるもの(記述した生徒は同一者)

---▶ は+方向に変容したもの(記述した生徒は同一者)

1 受けとめる力 感じ取ること

【設問】 合唱するとき、その歌の雰囲気や曲想を感じ取って、そこから自分なりのイメージをもって歌っていますか。

【選択肢】 [ aよくしている bたまにしている cあまりしない dまったくしない ]  
( a, bは「+」の反応、c, dは「-」の反応とする )

	事前 (8)	事後 (20)	事前 (24)	事後 (14)
+ の 理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声の強弱を付けやすい</li> <li>・心を入れて歌いたい</li> <li>・イメージをもって歌えばよい合唱になる</li> <li>・なりきらなきゃつまらない</li> <li>・歌いやすい</li> <li>・楽しく歌える(2)</li> <li>・そのほうがいい(2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その曲の雰囲気を大事にするため</li> <li>・歌の雰囲気にあった歌い方をしないといい歌ができない</li> <li>・歌のイメージをもって歌ったほうがその歌の意味がわかる</li> <li>・曲に入りやすいし、歌いやすかったりする</li> <li>・イメージをもって歌うとどこを強調して歌うとかがわかりやすい</li> <li>・イメージをもつて歌わないとつまらない</li> <li>・イメージをもつて歌ったほうが曲っぼい</li> <li>・相手に伝わりやすい</li> <li>・歌いやすい(4)</li> <li>・楽しく歌える(2)</li> <li>・気持ちよく歌える</li> <li>・合唱が好きで自分なりのいい歌にしたい(2)</li> <li>・そのほうがいい</li> <li>・無意識に(2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌の雰囲気を出すため</li> <li>・うまく歌える気がする</li> <li>・楽しい(2)</li> <li>・歌いやすい(5)</li> <li>・少しイメージが浮かぶ</li> <li>・勝手に浮かぶ</li> <li>・知らず知らずのうちに</li> <li>・歌がサイコー</li> <li>・歌が好き(3)</li> <li>・イメージをつかみやすいときとそうでないときがある(2)</li> <li>・気が付いたときにイメージする</li> <li>・浮かぶときと浮かばないときがある</li> <li>・イメージできたときだけ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きれいにハモったりしている合唱になる</li> <li>・曲によって難しいものもあるけど少しでもその曲の雰囲気を出せるようにしている</li> <li>・心を入れて歌いたい</li> <li>・そのほうがいい感じに歌える</li> <li>・歌いやすくなるため</li> <li>・歌いやすい(2)</li> <li>・楽しい</li> <li>・イメージをもって歌えばよい合唱になる</li> <li>・自分の好きな歌の時にはイメージをもっている</li> <li>・少し自然にわいてくる</li> <li>・勝手に考えている</li> <li>・自然に</li> <li>・無記入</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・眠くなる</li> <li>・やり方がわからない(2)</li> <li>・何も考えていない(2)</li> <li>・しようと思わない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(0)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想を感じ取れないからイメージをもてない</li> <li>・メロディに集中している</li> <li>・歌うだけで精一杯(2)</li> <li>・考える余裕がない</li> <li>・イメージをもてない</li> <li>・やろうと思わないしやり方がわからない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲によってイメージが浮かぶものと浮かばないものがある</li> <li>・イメージをすると自分の世界に入ってしまう</li> <li>・しようとするけどできない</li> <li>・歌うだけで精一杯</li> <li>・歌うことに集中している</li> <li>・何も考えないで歌っている(2)</li> <li>・よくわからない(2)</li> <li>・わからない</li> <li>・イメージをもてない</li> </ul>
- の 理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(6)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(0)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(7)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(11)</li> </ul>

## 2 受けとめる力 知覚すること

【設問】 合唱するとき、その曲にあったリズムやテンポ、強弱を生かして歌っていますか

【選択肢】 [ a よくしている b たまにしている c あまりしない d まったくしない ]

	事前 (12)	事後 (19)	事前 (24)	事後 (21)
+ の理由	・盛り上がりははっきりしない ・迫力が出る ・盛り上がる	・強弱やテンポを生かして歌うと歌のよさが伝わると思う ・イメージを膨らませるため ・曲を生かすことができる ・歌が盛り上がる ・いい雰囲気になる(2) ・合唱の雰囲気が変わる ・ハリがあったほうが歌って感じだから	・強弱を付けると歌が生きてくる ・曲のイメージに合わせるため ・リズムやテンポ、強弱がなきゃ歌じゃない ・強弱を付けると盛り上がる ・強弱を生かさないとバランスが悪くなる ・盛り上がる場所は盛り上げたい(2)	・盛り上げられるし、おもしろみがあって楽しい ・強調したいところがある ・リズムやテンポはあまりないけど、強弱の工夫は頑張って盛り上げたいところとかに気を付けたりすることがある ・合唱の雰囲気が変わる
	・リズムやテンポ、強弱を生かした方がい合唱になる ・きれいに聞こえると思う ・カッコいい合唱になる ・よりよい曲にしたい(3)	・強弱をつけるとカッコよくなる ・よりいい合唱ができる ・そのほうがおもしろい ・うまく歌える	・楽しく歌いたい ・強弱をつけると楽しい ・曲がさらよくなる ・うまく聞こえる ・そのほうがよく感じる ・いい感じになる	・リズムやテンポをつけると曲がぐっとよくなると思う ・よりよい歌にしたい(3) ・楽しく歌える ・うまく聞こえるような気がする
	・リズムや強弱で表せる部分もある ・強弱がよく記号で表されている ・しなきゃいけない	・強弱をいつも気にしながら歌っている ・自分で気付いたり、先生によく言われる ・リズムと強弱があればいいと思った ・そのほうがいい(2) ・変になる	・楽譜の記号を注意している ・気付いたときにしている ・曲の速さに気を付けるよ ・気を付けられるときにたまに曲によってはある ・無意識のうちに(2) ・自然に強弱をつけている ・つけた方がいいと思う ・テンポがわかるのとわからないのがある ・歌詞に注目していて気付かないときがある	・思い出したときにできるだけしている ・このほうがいいなと思うことがある ・わかったときはやっている ・気付いたときにしている ・自分にあつた歌だとしている ・合唱するということはそういうことだから ・自分の好みにあつたときには気を付けている ・記号が分かるときはなるべく楽譜どおりにするようにしている ・強弱をつけたほうがいい ・意識はしているけどなかなか頭が働かなかったりする ・なぜか ・無記入
- の理由	・よくわからない	無記入	・音程を合わせることはできない ・苦手だ ・できない ・あまり気にしていない ・あまり深く考えない ・よくわからない(3)	・あまりリズムやテンポに意識がない ・あまりよくわからない ・よくわからない(2)

## 3 関連付けること

【設問】 合唱曲に取り組んでいて、気に入った部分があったときどうしてその部分がよいと感じるのか、その理由を考えてみるがありますか

【選択肢】 [ a とてもある b 少しある c あまりない d まったくない ]

	事前 (4)	事後 (9)	事前 (14)	事後 (17)
+ の理由	・思いが伝わってくる ・自分の経験したことと似ていたりする ・歌詞がよかったり、楽しいから ・テンポが好きだったり、ハモリがきれいだったりする	・合唱をよくするためにいろいろ考える ・イメージができたりする ・テンポや強弱で(2) ・歌詞がいい(2)	・歌詞の意味を考えることで歌い方も変わってくるから ・曲の雰囲気を出すために自分なりに考える ・曲のよさを知り、楽しく歌いたい ・曲のよさを知ることが出来る ・何がよいのかははっきりさせたい ・よいところを知りたい	・合唱をよくするためにいろいろ考える ・その歌のイメージが湧く ・その曲が好きになれる ・合唱が楽しくなる ・合唱がおもしろくなる ・楽しい ・その歌を好きになれるように努力したい
		・なんとなく ・したいから ・気に入ったから	・歌詞や伴奏による ・自分と共感できる ・強くするところは考える ・歌ったときの気持ちがよい ・なんとなく ・歌がサイコー ・無記入	・リズムでテンポや強弱で盛り上がりで気に入っている理由がないと変な感じがする ・いい合唱にするため(2) ・そのほうがいい ・なんとなく ・無記入
			・なんとなく ・したいから ・気に入ったから	・なんとなく ・無記入
- の理由	・わからない(2) ・考えたことがない(2) ・深く考えない ・考えない(2) ・考えていない	・深く考えない ・好きなだけだ ・あまり考えられない ・考えていない	・気に入った部分によって感じ方は変わる ・気に入ってもそれ以上のことは考えない ・考えることが好きじゃない ・考えることが苦手 ・そこまで考える必要がないと思う ・よいと感じるだけで充分だと思う ・理由まで考えるのがめんどう	・ただ感じるだけで理由まで考えたことがない ・気に入った部分があり見つからない(2) ・頭を使うのは苦手 ・わからない ・好きなものは好き ・ただいいなと思った ・あまり深く考えない(2) ・特に気に入らない ・そんなに悩まない ・ただ好きとしか考えない ・特に深くは考えない ・理由を考えようと思ったことがない ・無記入

#### 4 見いだす力 (表現の工夫・・・受動的傾向)

【設問】 合唱曲するとき、歌い方を工夫するために、楽譜に書いてある記号や用語を生かして歌っていますか

【選択肢】 [ a よくしている b たまにしている c あまりしない d まったくしない ]

	事前 (8)	事後 (19)	事前 (21)	事後 (14)
+の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いい合唱になるし、聴いている方もドキドキすると思う</li> <li>・盛り上がるから</li> <li>・指揮をするにも楽譜を見ればやりやすい</li> <li>・記号などに気を付けて歌った方がい合唱になると思う</li> <li>・いい合唱にしたい</li> <li>・記号などを使って歌うと合唱がよくなる</li> <li>・強弱の記号があるところはできるだけ気を付けながら歌っている</li> <li>・強弱記号が付いているから</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記号なしで歌うと歌の雰囲気が出ないときがある</li> <li>・記号がないとずっと平坦な歌になってしまう</li> <li>・曲の雰囲気などが作られていい曲になる</li> <li>・指揮とかにも使う</li> <li>・曲の雰囲気を出すため</li> <li>・曲のよさがでる(3)</li> <li>・自分自身が工夫したいと思っている</li> <li>・いい合唱になる</li> <li>・いい合唱にしたい</li> <li>・いい合唱ができる</li> <li>・歌いやすくなる</li> <li>・合唱をよりよくするため</li> <li>・楽しい</li> <li>・声量などに気を付けている</li> <li>・自分ではまだうまく工夫できないから、楽譜の記号に意識して歌うようにしている</li> <li>・楽譜に書いてあるから</li> <li>・そのほうがいい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聴いてて飽きないような歌にしたい</li> <li>・記号を生かした方が歌のよさが出ると思う</li> <li>・歌を楽しむことができる</li> <li>・工夫した方がよい合唱になる</li> <li>・いい歌声を出したい</li> <li>・いい合唱にするため(2)</li> <li>・よりよい歌にしたい</li> <li>・きれいな合唱になる(2)</li> <li>・合唱を成功させたい</li> <li>・うまく聞こえる</li> <li>・まとまりのある合唱になる</li> <li>・合唱がもっとよくなる</li> <li>・気が付いたときは意識して歌っている</li> <li>・意識できるところはたまにする</li> <li>・わかる記号は気をつける分らない記号のところはなんとなく歌っている</li> <li>・記号をちゃんと見てないときがある</li> <li>・記号がわからなくなる</li> <li>・記号が小さい</li> <li>・記号がわからない</li> <li>・そこまで気にしたりしない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聴いている人に迫力を分かってもらえる</li> <li>・いい歌にしたい</li> <li>・楽しくいい歌にするため</li> <li>・いい歌にするため</li> <li>・いい合唱ができる</li> <li>・合唱がもっとよくなる</li> <li>・わかる記号はなるべく意識している</li> <li>・見て気が付いたところは意識して歌っている</li> <li>・記号の意味の分かるものは意識するようにしている</li> <li>・そうした方がいい歌になりそうな気がする</li> <li>・うまく聞こえるような気がする</li> <li>・先生に言われているから</li> <li>・少しわからない記号がある</li> <li>・あまり見ない</li> <li>・記号がわからないもの(3)</li> <li>・記号をあまり見ない</li> <li>・楽譜が読めない</li> <li>・記号や楽譜をちゃんと見ていない</li> <li>・記号や用語があまりわからない</li> <li>・記号が少わからない</li> <li>・記号がよわからない</li> <li>・あまり見ない</li> <li>・よわからない</li> <li>・記号は気にしていない</li> <li>・用語があまりわからない</li> </ul>
	-の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記号や用語を見て意味が分からない</li> <li>・楽譜はあまり見ない</li> <li>・楽譜の記号がわからない(2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しようとしてわからない</li> <li>・強弱は気にするけど他の記号はあまり気にしない</li> <li>・あまり気にしていない</li> <li>・苦手だから</li> <li>・楽譜に書いてある記号がよく分からない</li> <li>・記号をあまり知らない</li> <li>・記号があまり知らない</li> <li>・記号が少わからない</li> <li>・記号がよわからない</li> <li>・あまり見ない</li> <li>・よわからない</li> <li>・用字があまりわからない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記号がわからないもの(3)</li> <li>・記号をあまり見ない</li> <li>・楽譜が読めない</li> <li>・記号や楽譜をちゃんと見ていない</li> <li>・記号や用語があまりわからない</li> <li>・記号がよわからない</li> <li>・よわからない</li> <li>・記号は気にしていない</li> </ul>

#### 5 見いだす力 (表現の工夫・・・能動的傾向)

【設問】 合唱するとき、自分なりにその歌のよさを生かす表現の仕方を工夫しますか

【選択肢】 [ a よくしている b たまにしている c あまりしない d まったくしない ]

	事前 (4)	事後 (10)	事前 (15)	事後 (18)
+の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりにどうい歌か、表現して見ている人にも楽しい感じになるように</li> <li>・ノリノリになる</li> <li>・そのほうがいい(2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現したいことがわかりやすくなる</li> <li>・強弱とかはよくやるリズムも気が付いたときには頑張っていたりする</li> <li>・自分なりに歌のリズム感を工夫している</li> <li>・うまく歌いたい(2)</li> <li>・音階が好き</li> <li>・合唱が好き</li> <li>・自分自身が工夫したいと思っている</li> <li>・そのほうがいい(2)</li> <li>・うまくなるから</li> <li>・歌いやすくなる</li> <li>・合唱がよくなる</li> <li>・強弱や歌い方の工夫をしている</li> <li>・歌のよさを生かして歌うと楽しい</li> <li>・歌のよさがある</li> <li>・うまくなりたい</li> <li>・楽しい(3)</li> <li>・その歌をよりよいものにした</li> <li>・いい歌にできる</li> <li>・おもしろくなるから</li> <li>・できるだけ生かすようにはするけど、たまにできないときもある</li> <li>・歌の気持ちとかを生かす表現が工夫されている</li> <li>・自然に表現している</li> <li>・そのほうがいいと思う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりにどうい歌か、表現して見ている人にも楽しい感じになるように</li> <li>・ノリノリになる</li> <li>・そのほうがいい(2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲を大事にすることいい合唱にするため</li> <li>・この歌をいいものに仕上げたい</li> <li>・どんなに聴いて欲しいというとき</li> <li>・どの部分を強調したらいいのかが気になら歌っている</li> <li>・表現したいことがわかりやすくなる(2)</li> <li>・顔で表現する</li> <li>・楽しいいい合唱になると思う</li> <li>・楽しく合唱をしたい</li> <li>・そのほうがいい合唱になる(2)</li> <li>・合唱がもっとよくなる</li> <li>・楽しい</li> <li>・歌いやすい</li> <li>・歌いやすいから。でも、分からないときもある</li> <li>・こうしたいというのが少しある</li> <li>・生かしたかった</li> <li>・生かした方がいい</li> <li>・そうしたい</li> <li>・表現の仕方が難しくなかなかないうようにできない</li> </ul>
	-の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どう工夫すればよいかよわからない(3)</li> <li>・どうすればよいかよわからない(2)</li> <li>・表現の仕方がわからない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現の仕方を工夫するのはなく表現を工夫する</li> <li>・歌っているのが嬉一杯</li> <li>・歌うこと集中して工夫する余裕がない</li> <li>・よくわからない。先生にアドバイスをもらったら工夫する</li> <li>・みんなどづれるのがいやだ</li> <li>・したいけどどうしていいのかわからない</li> <li>・表現の仕方がよわからない(2)</li> <li>・自分なりにあまり考えない</li> <li>・どうすればよくなるかわからない</li> <li>・あまり気にしていない</li> <li>・考えていない</li> <li>・どんな表現をしたらよいかよわからない</li> <li>・よわからないから</li> <li>・無記入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どう工夫すればよいかよわからない(3)</li> <li>・どうすればよいかよわからない</li> <li>・わからない</li> <li>・できない</li> </ul>

事前事後調査分析2 - 数値編

No.	1			2			3			4			5		
	P1	P2	変容												
A1	1	1	c	1	1	c	2	4	a	1	1	c	1	3	a
A2	3	1	e	4	3	d	5	4	d	1	2	b	2	3	b
A3	3	3	c	3	3	c	1	1	c	1	1	c	3	3	c
A4	4	4	c	4	4	c	1	1	c	4	4	c	1	4	a
A5	2	3	b	2	3	b	1	1	c	2	1	d	1	2	b
A6	1	1	c	1	1	c	1	1	c	1	1	c	1	1	c
A7	3	3	c	4	4	c	3	2	d	1	4	a	3	1	e
A8	3	2	d	3	3	c	1	2	b	1	1	c	1	1	c
A9	3	*	*	3	*	*	3	4	b	1	1	c	4	1	e
A10	2	2	c	1	4	a	2	1	d	1	3	a	1	2	b
A11	3	3	c	4	3	d	1	1	c	4	4	c	4	3	d
A12	4	4	c	5	5	c	5	3	e	5	5	c	5	5	c
A13	2	3	b	3	3	c	*	4	*	4	3	d	*	3	*
A14	4	3	d	4	5	b	5	5	c	1	4	a	4	4	c
A15	3	4	b	4	5	b	4	5	b	4	4	c	3	5	a
A16	2	3	b	5	3	e	1	1	c	5	4	d	2	3	b
A17	4	4	c	5	4	d	4	3	d	4	4	c	4	4	c
A18	2	4	a	3	5	a	*	*	*	4	4	c	1	4	a
A19	4	4	c	4	3	d	5	5	c	2	4	a	4	5	b
A20	3	5	a	4	5	b	*	5	*	4	4	c	1	1	c
A21	4	4	c	4	3	d	*	*	*	4	4	c	1	1	c
A22	4	4	c	4	5	b	1	5	a	4	5	b	5	5	c
B1	1	1	c	3	3	c	1	1	c	1	1	c	1	1	c
B2	3	4	b	2	4	a	2	3	b	2	1	d	4	4	c
B3	1	2	b	3	3	c	5	1	e	4	4	c	1	2	b
B4	4	4	c	1	1	c	2	5	a	1	1	c	4	3	d
B5	3	4	b	5	5	c	2	1	d	4	4	c	4	3	d
B6	4	4	c	5	5	c	1	1	c	4	5	b	1	4	a
B7	4	4	c	4	4	c	4	5	b	4	3	d	1	4	a
B8	1	2	b	1	2	b	1	3	a	1	1	c	*	1	*
B9	1	2	b	1	3	a	1	2	b	1	2	b	1	1	c
B10	1	3	a	1	3	a	3	3	c	1	1	c	2	3	b
B11	3	3	c	1	3	a	4	4	c	1	1	c	1	5	a
B12	3	3	c	3	3	c	1	1	c	1	3	a	2	2	c
B13	2	3	b	3	2	d	1	2	b	3	3	c	2	2	c
B14	4	5	b	5	3	e	1	1	c	5	3	e	2	2	c
B15	4	5	b	5	5	c	4	4	c	2	5	a	1	4	a
B16	4	3	d	5	4	d	2	4	a	4	3	d	2	4	a
B17	3	5	a	4	4	c	5	5	c	4	4	c	1	1	c
B18	4	4	c	2	3	b	1	1	c	3	3	c	2	1	b
B19	5	5	c	3	5	a	1	5	a	3	5	a	5	5	c
B20	3	3	c	5	5	c	4	5	b	5	4	d	4	4	c
B21	5	5	c	5	5	c	5	4	d	4	5	b	2	5	a
B22	4	5	b	3	3	c	1	1	c	3	4	b	3	5	a
B23	3	3	c	3	3	c	4	3	d	3	3	c	3	5	a
5	2	7	4	10	12	7	7	10	6	4	6	7	3	9	12
4	15	14	13	12	8	7	7	8	8	16	16	6	9	10	8
3	15	14	23	12	19	21	3	6	18	5	9	24	5	9	18
2	6	5	3	3	2	7	6	4	7	4	2	7	9	6	3
1	7	4	1	8	3	2	18	15	2	16	12	1	17	11	2

P1 = 事前 P2 = 事後 \* = 無記入

注) a= 2段階以上アップ b= 1段階アップ c=0変化なし d= 1段階ダウン e= 2段階以上ダウン

批評文(1) 一覧  
検証B(Cを含む) 「受けとめる力」の変容状況

No.	シットNo. 2 初発の感想 (上段=歌詞について、下段=曲について 丸ゴシック=感性的側面、教科書体=構造的側面、太字=両面を関連付けている 記述を表す)	感受の傾向	検証C 批評文(1)			3 交流		交流		交流		
			分類	関連	発展	傾向	感想	感想	傾向	変容	感想	
A1	自然な感じ...「鳥も木も草も」 みんな生きているなあと まあいい感じ、あまりとがっていない感じ...「ひらくのだ、やさしいメロディー、神秘的な感じ」	[感]	3	b	b	a	[感]	みんな深い(感じ取っている、感情的、A君が) いろんな「感じ」を積み重ねてきてい	みんな感情的だし、よく考えていると思った	e	[浅]	ほとんどの人が「IN TERRA PAX」といふところに注目し、工夫していた
A2	地球は偉大だといっている...「地球の鼓動だ、」 なんかすごい 強弱がとても大きい...「鳥も木も草も、盛り上がり」がすごい	[知]	2	c	a	a	[感]	話を聞いて「不思議な感じ」「平和」を感じた	どれもじぶんのやりかたでかまわなくていいと思った	d	[知]	どこの意見もそれそれ違う場所のことを言っていてとてもいいと思った 知 感 知
A3	自然のことばだった...「In terra pax」 英語だから 自然がすごくわかるような感じ...「鳥も木も草も、」 「In terra pax」につながるところが好き	[感]	2	a	b	a	[感]	みんないろんな考えを持っている、A君が 自然や夢などをたくさん書いてよかった	みんな個性豊かな発表だと思った	b	[表]	他のグループは自分たちのグループよりも濃い内容でよかったです
A4	とても平和だと思う...「地球に愛を、」 とても平和を感じさせる	[感]	1	a	a	a	[感]	いろいろな意見が出てきてとてもよかった	みんなどんなふうに「IN TERRA PAX」を歌いたいのかわかった	e	[浅]	みんな強弱に注目していたらしい、同じ考えをもっている人もいてよかった
A5	平和だと思った...「In terra pax」 眠くなる	[感]	2	c	b	b	[感]	みんなどうなのかわからない	みんな一人一人違った考えかただと思った	e	[浅]	各組とてもすごい発表をしていた
A6	大自然な感じ...「僕らに夢を、 夢があつていいなあ 穏やかな感じとてもいい...「地球に愛を、 愛が盛りだくさん ほらかな感じ、なめらかな感じ」	[感]	2	a	a	b	[感]	みんな深い(よく考えていた)	みんなとても工夫されたイメージスコアで、表現されていることがわかりやすかった	e	[浅]	各組とてもいい発表をしていたのでおもしろかった
A7	不思議な感じがする 地球の偉大さが感じられる...「人は生きる 鳥も木も草も」 みんな生きてる感じだから	[感]	3	(a)	b		[関]	みんなリズムを感じてイメージを表現していた	みんな同じように、盛り上がり強弱をイメージスコアで表していた	c	[感]	どのグループも表現の工夫について、自分たちの意見をとてもうまく発表していた 感 深
A8	不思議な感じ「ウァー」やられた...「人は生きる 鳥も木も草も、 不思議なところ 自然な感じ、不思議、流れ...「新しい風に向い~目を開くのだ、」 心に伝わってきた	[感]	1	a	b	a	[感]	みんな個人の意見を持っている、A君の「強い」がさらけ出している感じが感情的	みんなそれぞれ強くていい考えをもっていていいと思った	c	[感]	どの組も共通するところや違う工夫の仕方などわかりやすく発表しているいい工夫の仕方があると思った 感 深
A9	長い、ゆっくりの感じ...「In terra pax、言葉の響きがあった 自然の中にいる感じがした...「人は生きる 鳥も木も草も」 自然のことを言ってみよう	[知]	1	a	b	a	[知]	みんな深い(いろいろ考えている、誰の「夢、愛」などもたくさん書いてよかった	みんなとてもいい感じ、例えれば内容は内容がよかったし、なんでもよかった	e	[浅]	みんないろいろ話し合っていてよかった
A10	自然の中にいる感じがした...「地球に愛を、僕らに夢を、 この歌の一言言いたいことと思う 平和だと思った。大地が平和だと言っているような感じ...「In terra pax」 響きが最高、英語だから	[感]	1	a	b	b	[感]	みんなそれぞれ感じ方が違うんだなと思った	みんな個性豊かな発表だと思った	e	[浅]	みんなの工夫の仕方がよくとてもわかりやすかった
A11	まったりしている、遠いかけの様な感じがきれい、ハモリが結構ある...「In terra pax 地球に愛を 僕らに夢を、 ハモリのできたあがすごくきれいだから	[関]	2	a	c	b	[関]	みんな同じような感じだった	みんないろんな考えがあつた、みんなの表現がバッチリだった、それがよかった	b	[表]	みんな同じようなことを紹介していたけど工夫の仕方が全異なっていたので聴いていて楽しかった、みんなとてもいいことを考えていたのでいい感じになりました
A12	自然の中で生きてるんだなあって感じがした...「野辺に出よう、」空を見よう、 自然って感じがしていい ハモっているところがすごくきれいだった...「In terra pax、」ハモりがきれいでいい	[知]	1	(a)	b		[知]	みんなよく要素を調べている、詳しく書いている	みんな同じようなイメージがそのまま書かれていてわかりやすかった	a	[知]	二人の意見も取り入れていい感じになりました
A13	自然のすばらしさを感じた...「人は生きる 鳥も木も草も」 生きるの人も鳥も木も草も当たり前のことだから 重なり合ったハーモニーがきれい、自然の偉大さを感じた...「人は生きる 鳥も木も草も、 テンポが変わって雰囲気が変わるから	[関]	1	a	a	a	[関]	自分が気がつくところに気づいてすごかった、曲のことがわかった	みんな歌詞がうまい(表現できるように工夫していたので)すごいと思った、同じ歌詞でそれぞれの表現の仕方が違ったので勉強になりました	a	[感]	みんな思えてきた感じがします
A14	自然の平和のことを考えている詞、夢を持って生きていこうみたいな感じ?...「地球に愛を、僕らに夢を、 夢を遠いかけようような感じがきれい、ハモリが結構ある...「新しい風に向い、 地球に愛を、僕らに夢を、	[感]	2	a	b	b	[関]	同じ意見の人だけでなくみんなそれぞれいい考えをもっていた、要素が「やさしいリズム」「ゆっくりなリズム」が多かった	グループのなかでは結構共通点が多かった、一人一人考えや表現の仕方がわかったのでよかった	b	[表]	グループ内では考えがなかったかと思われ、表現の工夫があり、そういう考えもみんなだと思った、全体で交流してさらに考えが深まったのでよかったです
A15	自然の響きとかが偉大さとかが詞によく表れていた、自然な感じ...「不思議なリズム 地球の鼓動だ、」ドキドキする 「声も出ている、強弱記号にも気を付けて歌っていた...」In terra pax、 きれいにハモリしていた	[知]	1	b	a	a	[知]	みんなよく要素をさらべている、いろいろな感じがある	前同様、一人一人の考えかたが、表現の仕方が深くなっていて聴いておもしろかったし、自分と比べるとよかった	a	[感]	知 知 知
A16	遠い感じがした...「輝の光をほほに受けとめて、」 すごく温かい感じがするから 温かい感じがした、In terra pax、を強く歌っていた...In terra pax、 すごくきれい	[感]	1	b	c	b	[感]	自分の気がつかないところを書いていた	すごい個性的なイメージスコアの発表があった		[無]	
A17	自然のすばらしさ...サビが気に入った、印象に残るから パート毎にどんどん重なっていくところがきれいにハモっていてすごかった 「人は生きる 鳥も木も草も、」 テンポが速くなる	[関]	3	a	b	b	[関]	自分とは違う意見を持ってても納得するところが多かった	みんな同じ考えのところもあったし、自分が書いていないところを書いている人もいたので、それぞれ見方が違うんだなと思った	d	[知]	共通している点、好評だった点やわかりやすく発表されていた、他のグループの人も同じ考えをもっていた
A18	やさしい感じと壮大な感じ...「人は生きる 鳥も木も草も、」 今ここにいるんだとアピールしている希望に満ちている感じ きれいにハモるとすごいパワーがあふれる歌になってかっこいい...「鳥も木も草も、 一気に盛り上がる、リズムがいい感じ」	[知]	2	b	b	b	[知]	けっこ似たところを目付けて要素を考えたので「納得」していた	同じところを書いても、表現を工夫したところがそれぞれ違うんだなと思った	b	[表]	グループ内で意見を、どこのグループもわかりやすくまとまっていたので聞かされた、いろんな工夫の仕方があったんだなと思った
A19	壮大な曲...サビ、地球に愛を、僕らに夢を、 明るい感じがすき リズムがよくて、流れに乗っている、後半の伴奏がすごい...「鳥も木も草も、」リズムがすき、 (自然のことを歌っている...「人は生きる 鳥も木も草も、」 少しゆっくりにリズムがいい)	[知]	3	b	b	b	[知]	みんなの意見が聞けて楽しかった	みんな同じところで、表現の仕方がそれぞれ違うんだなと思った	b	[表]	工夫の仕方がそれぞれ違っていてもいいと思った(感)
A20	(きれいな)声も出ている、強弱記号にも気を付けていた、 ...「In terra pax 地球に愛を、僕らに夢を、」 やさしい感じとゆっくりに感じがいい	[感]	2	b	a	a	[関]	個性的でいろいろな考えをもっていた、やさしいとかハモリを目をつけて、自分と同じ考えをもっていることがわかった	みんな同じようなところに注目していたところもあったけど、人それぞれのもちろんあり、いろいろな考えをもっていることがわかった	c	[感]	グループ内で話し合ったことがわかった、共通点や好評だったところもわかりやすかった、私たちのグループと似た考えをもっているグループもあった

1=初発の感受の傾向、[感]感性的側面を感じ取った生徒、[知]構造的側面を知覚した生徒

[関]感性的側面を感じ取り構造的側面を知覚した生徒、[関]感性的側面と構造的側面を関連付けた生徒

2=交流、[感]総合的な考え方をする、[知]構造的側面に着目している、[感]感性的側面に深まることが見られる、

[表]表現の工夫の仕方に着目している、[浅]浅い受けとめ、[無]欠席のためデータなし

批評文(2) 一覧

検証D 「見いだす力」の変容状況

No.	選んだところ	表現の工夫	表現の工夫	1	2	3	視点A	視点B
A1	とくととー さわさわとー	風に吹かれる感じ	迫力をすこくするために強弱の部分で微妙に強くてアクセントをつけて、迫力を出す前の部分でちょっと弱める。 そしてだんだん大きくする	x			d	a
	鳥も木も草も							
A2	さわさわとー	風に吹かれる感じ	「はらばい」のところをあわてないで入るようにする	x			d	c
A3	人は生きる 鳥も木も草も	生きている感じに	すごい迫力にするために強弱のところに気を付けて「時には少し強めに強くする。Pの時は少し弱めに弱くする	x			d	
A4	さわさわとー	風に吹かれる感じ おもしろい					b	b
A5	鳥も木も草も	迫力満点	すごい迫力にするために強弱をつける	x			d	d
A6	のついているのを強調して	落ち着いた感じで	旋律の強弱に気を付けて風に吹かれる感じに				c	b
A7	とくととー さわさわとー	ふわっとした感じ	ふわって感じにするためにテンポをゆっくりにして口の中がもやもやする感じに歌う。その後少しづつ声を大きくする。 「とくとく」の最初の「と」を鼻から息を吐く感じに				a	a
A8	鳥も木も草も	すんごい迫力で	強くしたりして迫力を出す	x			d	c
A9	最後のin terra pax	ハモリをきれいにしたい	強弱に気を付ける「とくととー」のところはゆっくりめに歌ったり「鳥も木も草も」のところは早めにとか				b	b
	とくとと							
A10	in terra pax	優しい感じ	だんだん強く歌うために「鳥も」の「と」を弱めに入れて、だんだん強く声を少しずつ大きくして、fiの「in terra pax」につなぐ。					
	地球に愛を 僕らに夢を	地球に愛を 僕らに夢を	流れる感じにするために八分の六拍子のテンポに気を付けて「in terra pax」から「夢を」までをひとまとまりで歌う	x			d	a
A11	人は生きる 鳥も木も草も	だんだん強く	テンポはまったりした感じで歌詞全体をやさしく歌う					
	in terra pax 地球に愛を 僕らに夢を	流れていく感じ					b	b
A12	鳥も木も草も in terra pax 最後のラララ・・・		最初の部分は口を縦にして柔らかく伸びると歌う。中盤は「鳥も木も草も」ところで盛り上がって(どんだん大きな声にして最後の「草」の時にはもうでかい声)「in terra pax」のところでもた柔らかなのびのびと。後半は最後の「ラララ」で一気に初めて外に出た子どものように弾ける感じ (大きな声でのびのびと気持ちよく 背伸びする感じ飛び立つ感じ)にのびのびと、顔でも表現。「地球の鼓動」のところに強弱も入れて				a	a
A13	in terra pax	のびのびと感情を込めて歌う	のびのび歌う。「in terra pax」の「i」を気合いを込めて歌う				b	b
A14	1-10「in terra pax」	のびのびと気持ちを込めて						
A15	in terra pax	八分の六拍子の揺れに気を	やさしくゆっくり語りかけるようにするために、八分の六拍子の揺れに気を付けて					
	地球に愛を 僕らに夢を 鳥も木も草も	つけて少し強く 柔らかく少し伸ばして	リズムや強弱に気を付ける。ゆっくりやさしい感じ、少し伸ばして流れる感じにする ために少し伸ばした感じで歌い、リズムや強弱に気を付け、のびのびした感じで歌う				a	a
A16	Aの サビ	のびのびと歌いたい	最初の部分は伸び伸びと歌う。「in terra pax」のところでのびのびとリズムカルに歌いたい。「i」に力を入れて歌う。 「愛」と「夢」に気持ちを入れて強めに歌いたい				a	a
A17	in terra pax							
A18	in terra pax 地球に愛を 僕らに夢を	元気にのびのびと歌いたい	口を縦に開けてのびのびと歌う。「in terra pax」のところを一番気持ちを込めてみんなに伝わるように、温かく歌う				c	b
A19	Aの部分 地球に愛を 僕らに夢を	八分の六拍子を イメージしながら	語りかけるように、やさしく歌いたい、ゆっくりした感じで、リズム・強弱に気をつけ伸び伸びとした感じに歌いたい				a	a
A20	鳥も木も草も	のびのびと優しい感じ	ゆっくりやさしく語りかけるように、リズム・強弱に気を付ける「鳥も木も草も」のところで単語をはっきり聞こえるように歌う のびのび歌い、リズム・強弱に気を付ける				a	a
A21	Aの部分 地球に愛を 僕らに夢を	語りかけるように 話しかけるように	「地球の鼓動だ～鳥も木も草も」強弱を付けたい 「さあ 野辺に出よう」cresc. ゆっくり流れるように、リズムに乗ってのびのび歌いたい				a	a
A22	Aの部分 in terra pax	八分の六拍子みたいな こんな感じを 忘れずに(ゆれ) 少し強くしていく感じで	ゆっくりでやさしい感じにするために、リズムや強弱ののびのびした感じで歌う。「鳥も木も草も」のところで少しづつ強くしていく ために強弱に気を付ける					
	地球に愛を 僕らに夢を 鳥も木も草も	強弱に気を付けて歌いたい					b	b

1 批評文(1)が生かされている  
2 表現の工夫 より具体的に書いている  
3 表現の工夫 が生かされている



生徒の感想（題材「イメージと強弱や旋律の特徴を関連づけた合唱表現」の授業について）

3年A組 「IN TERRA PAX」

よくわからないこともあったけど、始めよりは自分の歌い方を考え、自分でこうしようという所がもてるようになりました。

自分らしい、3Aらしい「IN TERRA PAX」が見つけれられた気がします。文化祭では3Aらしい「IN TERRA PAX」を発表できるように頑張ります。

自分で歌を理解するということを学んだ。音楽の真の楽しさがわかってよかった。

自分なりに曲の好きなところを考えたり、イメージすることが大切なんだなぁと思いました。

みんなそれぞれ感じ方や考え方が違うんだなぁと思いました。それぞれの表現を一つの合唱にしたらとてもおもしろいものになると思いました。

ひとつの曲について深く考えてみると、いろんな工夫でもっとよいものができて、みんなのアイデアが詰まった3Aの曲になり、普通に歌うよりもきれいな歌になることが分かった。みんなの意見が聞けて楽しかった。

授業で歌を歌うときの気持ち、テンポ、リズム、メロディー、旋律などいろいろな要素を学びました。これからは歌を歌うときは、学んだことを生かして気持ちよく歌を歌いたいと思います。

今までは楽譜についている符号にしか注意していなかったけど、この授業をして、表現の仕方が増えて、前よりもうまく歌えるようになりました。これからも表現の仕方を工夫していきたいです。

今回の授業は、イメージスコアを書いたりして、自分が考えたことをみんなに伝えたり、みんなが考えたことなどいろいろわかったのでよかったです。3Aらしい「IN TERRA PAX」が歌いたいです。

いろんな「IN TERRA PAX」のイメージをもつことができました。文化祭では、強調したいところややさしく歌いたいところをそのとおりに歌いたいと思うので、ぜひ聴きに来てください。

今までやったことのないイメージスコアなどのプリントを使ったり、交流会などをし、さらに「IN TERRA PAX」をどのように表現したらよいかなど、深めることができました。そのおかげで、考えが深まり、前よりもうまく歌えるようになったのでよかったです。

3年B組 「Soon-ah will be done -神の御許に-」

音楽は、ただ歌うだけでなく、記号とかをしっかりと見て勉強するのも大切だということがわかった。

どのような曲なのかを知ることの大切さを学びました。一人一人曲に対する感じ方は違うけど、それを大切にして取り組みればとてもいい合唱ができるということがわかりました。

曲の雰囲気や歌い方などを自分で考えることができよかった。今まではテープや教科書の記号に頼っていたけど、これからは、自分で考えながら歌おうと思いました。曲の中に入り込めたような気がして楽しかった。

歌うだけが音楽じゃないことがわかってとてもいい勉強になった。

曲の中身や詞の意味が何となく分かった気がするので、詞に込められた意味を理解しながら歌いたいと思う。

歌詞に込められた気持ちや、曲のリズムに意味があることが分かりました。みんなで考えたアイデアを生かして3Bの合唱を作っていきたいです。

曲の意味を理解するということを学びました。詞に込められた気持ちやリズムなどにすごく意味があるということがわかりました。

今までは、歌の意味まで考えずに歌っていました。授業をとおして歌の意味から考え、そしてイメージして歌うという方法でやると、前よりも歌への気持ちが入りやすく、歌いやすかったです。

途中でもっと歌いたいと思ったときもあったけど、曲に対しての理解を深めることができたのでよかった。

今まで合唱は「するもの」だったけど、この授業で合唱は「表現するもの」というふうに考えが変わりました。いろんな人のイメージスコアを見たけど、それぞれが自分のイメージや好みに合わせて様々な工夫をされていてすごいなぁと思ったし、みんなのアイデアを集めてやったら、いい合唱になるかも。という期待ももてました。

## IN TERRA PAX

この曲のいいところは、一番盛り上がる「鳥も木も草も」や、一番ハモリがきれいな「とくとく」「さわさわ」だと思います。また、「鳥も木も 草も」のあと、シーンとなって「IN TERRA PAX」と柔らかく始まるところもかなりいいです。

男声とソプラノ、アルトの声が絡み合うような合唱で、平和を歌った歌です。

「IN TERRA PAX 地球に愛を 僕らに夢を」の所では、この歌の伝えたいことを流れるように歌っています。

この曲のよさは、自然の雄大さを表しているところです。雄大さを表現するためにそれぞれのパートがそれぞれの音を聴きながら歌えばいいと思います。

聴き所は「IN TERRA PAX」「さあ～」のところですか。「さあ～」のところはそれぞれのパートが重なり合っていくところに注目してください。

題にあるように神のところに早く行きたいという気持ちを表現した曲です。緊張感のある部分、叫んでいるように聞こえる部分など色々な面があります。

聴き所は最後の「I'm goint live wid God」です。「God」の所が8部合唱となっていて、目の前に神がみえるようです。希望と悲しさの二つの顔をもつ合唱です。

## Soon-ah will be done

この曲のよいところは、悲しい話の中に希望があるということです。それは「I want meet my mother」や「I want meet my Jesus」のところですか。そして、聴き所は「No more～」など、各パートが別々に重なり合うところです。

この曲は、歌詞の意味を考えると悲しい感じがするけど、メロディーには迫力があって聴いている人に強い印象を与えます。この曲のよさは、4つのパートのハーモニーの重なり方がきれいなところです。一番の聴き所は、やはり最後の8部合唱の所だと思います。